

H2

Docket No. 1614.1119/HJS  
**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

In re Application of:

Shinichi NOJIMA et al.

Group Art Unit:

Serial No.:

Examiner:

Filed: January 26, 2001

For: COMPUTER HAVING CHARACTER INPUT FUNCTION, METHOD OF  
CARRYING OUT PROCESS DEPENDING ON INPUT CHARACTERS,  
AND STORAGE MEDIUM

jc997 U.S. PRO  
09/769380  
01/26/01

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR  
FOREIGN APPLICATION IN ACCORDANCE WITH  
THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s)  
herewith a certified copy of the following foreign application(s):

Japanese Patent Application No. 2000-205339  
Filed: July 6, 2000

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing  
date, as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements  
of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,  
STAAS & HALSEY LLP

Date: January 26, 2001

By: \_\_\_\_\_

H. J. Staas

Registration No. 22,010

700 Eleventh Street, N.W., Suite 500  
Washington, D.C. 20001  
Telephone: (202) 434-1500  
Facsimile: (202) 434-1501

日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2000年 7月 6日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2000-205339

出 願 人  
Applicant(s):

富士通株式会社



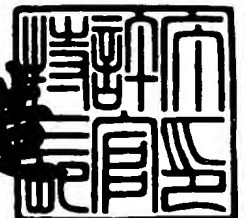
CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2000年12月 8日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 進



出証番号 出証特2000-3101674

【書類名】 特許願

【整理番号】 0051308

【提出日】 平成12年 7月 6日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/21

【発明の名称】 文字入力機能を持つコンピュータ装置及びプログラム記録媒体

【請求項の数】 10

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

    【氏名】 野島 伸一

【発明者】

    【住所又は居所】 新潟県長岡市東坂之上町二丁目1番地1 株式会社富士通オアシス開発内

    【氏名】 南波 学

【発明者】

    【住所又は居所】 新潟県長岡市東坂之上町二丁目1番地1 株式会社富士通オアシス開発内

    【氏名】 大島 俊雄

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

    【氏名】 恩塚 新治

【特許出願人】

    【識別番号】 000005223

    【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100095072

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡田 光由

【電話番号】 03-3807-1818

【選任した代理人】

【識別番号】 100074848

【弁理士】

【氏名又は名称】 森田 寛

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012944

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707817

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 文字入力機能を持つコンピュータ装置及びプログラム記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、  
入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、  
上記キーワードが検出される場合に、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する表示手段と、

上記メニュー画面を使って辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行する発行手段とを備えることを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、

上記発行手段は、上記入力文字を処理対象とした確定指示が行われるまでの間に選択される複数の辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行することを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項 3】 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、  
入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、  
上記キーワードが検出される場合に、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、

上記メニュー画面を使ってプログラムが選択される場合に、上記キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動する起動手段とを備えることを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項 4】 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、  
入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、  
上記キーワードが検出される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログ

ラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する表示手段と、

上記メニュー画面を使ってプログラムの起動要求が発行される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムを起動する起動手段とを備えることを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項5】 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、

入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、

上記キーワードが検出される場合に、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、

上記メニュー画面を使って変換プログラムが選択される場合に、上記キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動する起動手段とを備えることを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項6】 請求項1ないし5のいずれか1項に記載される文字入力機能を持つコンピュータ装置において、

上記入力文字を処理対象とした確定指示が行われる場合に、上記メニュー画面の選択に応答して動作させたプログラムを終了させる終了手段を備えることを、

特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

【請求項7】 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、

入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、

上記キーワードが検出される場合に、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する表示処理と、

上記メニュー画面を使って辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行する発行処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、

特徴とするプログラム記録媒体。

【請求項8】 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、

入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、

上記キーワードが検出される場合に、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示処理と、

上記メニュー画面を使ってプログラムが選択される場合に、上記キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、

特徴とするプログラム記録媒体。

【請求項 9】 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、

入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、

上記キーワードが検出される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する表示処理と、

上記メニュー画面を使ってプログラムの起動要求が発行される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、

特徴とするプログラム記録媒体。

【請求項 10】 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、

入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、

上記キーワードが検出される場合に、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示処理と、

上記メニュー画面を使って変換プログラムが選択される場合に、上記キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、

特徴とするプログラム記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、文字入力機能を持つコンピュータ装置と、その装置の実現に用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体とに関し、特に、文字入力中に、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行できるようにする文字入力機能を持つコンピュータ装置と、その装置の実現に用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体とに関する。

## 【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

ワードプロセッサなどのような文字入力機能を持つコンピュータ装置を使用しているときに、ユーザは、文章を作成する上で、ある文字の持つ意味などを辞書で確かめたいとか、ある文字を検索キーワードにしてインターネット上のWebページを検索して情報を入手したいとか、ある会社のホームページにアクセスしたいとか、ある人に電子メールを送信したいとか、あるプログラムを起動したいとか、ある文字の類義語や英語などを知りたいとかいったようなことを要求することがある。

## 【 0 0 0 3 】

しかるに、従来の文字入力機能を持つコンピュータ装置では、文字を入力するプログラムと、これらの要求に応えるプログラムとの間に連携機能を用意していない。

## 【 0 0 0 4 】

これから、ユーザは、文字入力機能を持つプログラムを使用しているときに、例えば、ある文字の持つ意味などを辞書で確かめたいと考えるときには、その実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断してから、辞書を検索するプログラムを別途起動させ、その起動させたプログラムにおいて文字入力、処理指示を行い、その文字の持つ意味などを検索するようにしている。

## 【 0 0 0 5 】

このように、従来技術では、文字を入力するプログラムと、上述したような要求に応えるプログラムとの間に連携機能を用意していないことから、入力中の文字に関連して上述したような他の処理を行う必要がある場合には、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断してから、その処理を行うプログ



ラムを起動させて処理操作を行うという方法を用いている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような従来技術に従っていると、ユーザは、文字を入力しているときに、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行する必要がある場合には、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断しなければならない。

【 0 0 0 7 】

これから、従来技術に従っていると、文字入力機能を持つプログラムで行っている業務が中断することで、その業務を効率的に実行できないという問題点がある。

【 0 0 0 8 】

本発明はかかる事情に鑑みてなされたものであって、文字入力中に、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行できるようにする新たな文字入力機能を持つコンピュータ装置の提供と、その装置の実現に用いられるプログラムを記録した新たなプログラム記録媒体の提供とを目的とする。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するために、本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置は、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、キーワードが検出される場合に、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する表示手段と、メニュー画面を使って辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、キーワードの指す辞書データの検索要求を発行する発行手段とを備えるように構成する。

【 0 0 1 0 】

このように構成される本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置では、検出手段が入力された文字から特定されるキーワードを検出すると、表示手段は、ユーザからの要求に応答して、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する。

## 【 0 0 1 1 】

これを受けて、発行手段は、ユーザがメニュー画面の中から辞書を選択すると、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、キーワードの指す辞書データの検索要求を発行することで、その辞書データをディスプレイ画面上に表示するように処理する。

## 【 0 0 1 2 】

このようにして、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字の持つ意味などを辞書で確かめたいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

## 【 0 0 1 3 】

また、この目的を達成するために、本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置は、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、キーワードが検出される場合に、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、メニュー画面を使ってプログラムが選択される場合に、キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動する起動手段とを備えるように構成する。

## 【 0 0 1 4 】

このように構成される本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置では、検出手段が入力された文字から特定されるキーワードを検出すると、表示手段は、ユーザからの要求に応答して、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する。

## 【 0 0 1 5 】

これを受けて、起動手段は、ユーザがメニュー画面の中からプログラムを選択すると、キーワードそのものをパラメータとして指定したり、キーワードに対応付けられるURLやメールアドレスなどのような属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動することで、その選択されたプログラムの処理画面をディスプレイ画面上に表示するように処理する。

## 【 0 0 1 6 】

このようにして、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字を検索キーワードにしてインターネット上のWebページを検索したいとか、入力中の会社名の会社のホームページにアクセスしたいとか、入力中の名前の人に電子メールを送信したいと希望するときなどに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

## 【 0 0 1 7 】

また、この目的を達成するために、本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置は、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、キーワードが検出される場合に、キーワードに対応付けられるプログラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する表示手段と、メニュー画面を使ってプログラムの起動要求が発行される場合に、キーワードに対応付けられるプログラムを起動する起動手段とを備えるように構成する。

## 【 0 0 1 8 】

このように構成される本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置では、検出手段が入力された文字から特定されるキーワードを検出すると、表示手段は、ユーザからの要求に応答して、キーワードに対応付けられるプログラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する。

## 【 0 0 1 9 】

これを受けて、起動手段は、ユーザがメニュー画面を使ってプログラムの起動要求を発行すると、キーワードに対応付けられるプログラムを起動することで、そのキーワードに対応付けられるプログラムの処理画面をディスプレイ画面上に表示するように処理する。

## 【 0 0 2 0 】

このようにして、本発明によれば、ユーザは、文字入力中にあるプログラムを起動したいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

## 【 0 0 2 1 】

また、この目的を達成するために、本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置は、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、キーワードが検出される場合に、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、メニュー画面を使って変換プログラムが選択される場合に、キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動する起動手段とを備えるように構成する。

## 【 0 0 2 2 】

このように構成される本発明の文字入力機能を持つコンピュータ装置では、検出手段が入力された文字から特定されるキーワードを検出すると、表示手段は、ユーザからの要求に応答して、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する。

## 【 0 0 2 3 】

これを受けて、起動手段は、ユーザがメニュー画面の中から変換プログラムを選択すると、キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動することで、キーワードの変換データをディスプレイ画面上に表示するように処理する。

## 【 0 0 2 4 】

このようにして、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字の類義語などのような変換データを知りたいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

## 【 0 0 2 5 】

以上説明したように、本発明によれば、ユーザは、文字入力中に、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行できるようになるので、文字入力を使って遂行する業務を効率的に実行できるようになる。

## 【 0 0 2 6 】

## 【発明の実施の形態】

以下、実施の形態に従って本発明を詳細に説明する。

【 0 0 2 7 】

図 1 に示すように、本発明のコンピュータ装置 1 は、ネットワーク 3 を介してサーバ 2 に接続されることがある。

【 0 0 2 8 】

図 2 に、本発明のコンピュータ装置 1 のハードウェア構成を図示する。

【 0 0 2 9 】

この図に示すように、本発明のコンピュータ装置 1 は、CPU 1 0 と、ROM 1 1 と、RAM 1 2 と、ハードディスクドライブ 1 3 と、フロッピーディスクドライブ 1 4 と、CD-ROM ドライブ 1 5 と、グラフィックボード 1 6 と、ネットワークやモデムなどの通信制御装置 1 7 と、インタフェース 1 8, 1 9 とを備える。

【 0 0 3 0 】

そして、そのグラフィックボード 1 6 にはディスプレイ 2 0 が接続され、通信制御装置 1 7 には通信線が接続され、インタフェース 1 8, 1 9 にはそれぞれキーボード 2 1、マウス 2 2 が接続される。

【 0 0 3 1 】

ROM 1 1 には起動用プログラムが記憶されており、電源投入時に CPU 1 0 により実行され、例えば、ハードディスクドライブ 1 3 に記憶されているオペレーティングシステムや、表示や通信処理のための各種ドライバなどを RAM 1 2 にロードして、各種処理や制御を実行可能な状態にするものである。

【 0 0 3 2 】

RAM 1 2 は、コンピュータを制御するプログラムが展開され、プログラムによる処理結果や処理のための一時データおよびディスプレイ 2 0 に表示するために展開されるデータを保持するために使用される。RAM 1 2 に展開された表示用データは、グラフィックボード 1 6 を介してディスプレイ 2 0 の画面上に表示される。

【 0 0 3 3 】

ハードディスクドライブ 1 3 およびフロッピーディスクドライブ 1 4 は、プログラムや制御データ、および作成された文書やイメージデータをそれぞれに対応

する記録媒体（ハードディスクやフロッピーディスク）に記録するためのデバイスである。

【 0 0 3 4 】

なお、本発明の実施形態においては、後述する辞書検索アプリ 3 2 および各種辞書、ブラウザ、メールソフト 3 8、その他のプログラムもハードディスクに記録されているものである。

【 0 0 3 5 】

CD-ROMドライブ 1 5 は、CD-ROM 2 4 に記録されているデータやプログラムの読み取りに用いられる。

【 0 0 3 6 】

通信制御装置 1 7 は、通信線により他の装置とのデータのやり取り、プログラムのダウンロードを行うために使用される。

【 0 0 3 7 】

キーボード 2 1 は、複数の文字キーや矢印キーからなり、各種データの入力を行うために用いられ、マウス 2 2 は、ディスプレイ 2 0 の画面上に表示されたマウスカーソルでの選択指示に用いられる。

【 0 0 3 8 】

本発明の処理をコンピュータに実行させるためのプログラムは、フロッピーディスクドライブ 1 4 または CD-ROMドライブ 1 5 により、フロッピーディスク 2 3 または CD-ROM 2 4 から予めハードディスクドライブ 1 3 に格納されている。また、通信制御装置 1 7 により通信線を介して該プログラムをハードディスクドライブ 1 3 に格納するようにしてもよい。

【 0 0 3 9 】

そして、上記プログラムは所定の指示により RAM 1 2 にロードされ、コンピュータの各部を制御して本発明の処理を実行させる。

【 0 0 4 0 】

本発明のコンピュータ装置 1 は、例えばカナ文字の入力機能を有するものであり、本発明を実現するために、文字を入力してその文字の変換操作による未確定状態の文字（以下、未確定文字と称する）を表示しているときに、ユーザからの

要求に応答して、図 3 に示すようなメニュー（以下、「ブリッジメニュー」と称する）画面を表示するように処理する。

#### 【 0 0 4 1 】

ここで、図中に示す「逢う」が未確定な状態にある入力中の文字である。また、このメニュー画面を表示するためのユーザの要求（操作）としては、所定のキーの押下やマウスなどのポインティングデバイスによる指示などがある。

#### 【 0 0 4 2 】

なお、入力した文字をどの段階で確定させるのかについては入力する文字の言語仕様によることになるが、日本語入力の場合には、例えば、入力したカナ文字に続けて「無変換キー」が押し下げられるときに、その入力したカナ文字を確定させ、そして、入力したカナ文字に続けて「変換キー」が押し下げられることで漢字に変換され、それに続けて次の文字が入力されるときに、その変換した漢字を確定させるという方法を用いるのが一般的である。

#### 【 0 0 4 3 】

ここで、この図 3 に示すブリッジメニュー画面では、「国語辞書を引く」／「和英辞書を引く」／「英和辞書を引く」／「科学・技術用語辞典を引く」／「現代用語辞典を引く」という辞書検索関係のメニュー項目と、「インターネット検索」／「ホームページを開く」／「メールを出す」／「プログラムを起動」というプログラム起動関係のメニュー項目と、「クイック和英」／「クイック類義語」／「クイック単漢字」／「郵便番号変換」／「日付変換」という変換関係のメニュー項目とを持つものを示してある。

#### 【 0 0 4 4 】

図 4 に、本発明のコンピュータ装置 1 の一実施形態例を図示する。

#### 【 0 0 4 5 】

この図に示すように、本発明のコンピュータ装置 1 は、入力されたカナ文字を漢字に変換する処理を行うカナ漢字変換部 3 0 と、インストールされている図示しない辞書の情報を取得する処理を行う辞書情報取得部 3 1 と、指定された辞書を検索対象として指定された文字の指す辞書データを検索する処理を行う辞書検索アプリ 3 2 と、検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 と、検索サイトの検索ペ

ージを閲覧する処理を行うブラウザ 3 4 と、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 と、ホームページを閲覧する処理を行うブラウザ 3 6 と、メールアドレス定義ファイル 3 7 と、メールを送受信する処理を行うメールソフト 3 8 と、プログラムパス定義ファイル 3 9 と、規定の処理を行う起動対象となる 1 つ又は複数のプログラム 4 0 とを備える。なお、ブラウザ 3 4 とブラウザ 3 6 とを別々なものとして説明しているが同一のものである。

#### 【 0 0 4 6 】

ここで、ブリッジメニュー画面に記述される「クイック和英」の変換機能（指定される文字を英単語に変換して、その変換候補を表示する機能）と、「クイック類義語」の変換機能（指定される文字を類義語に変換して、その変換候補を表示する機能）と、「クイック単漢字」の変換機能（指定される単漢字の持つ情報を取得して、それを表示する機能）と、「郵便番号変換」の変換機能（指定される数字の指す住所情報を取得して、それを表示する機能）と、「日付変換」の変換機能（指定される文字に応答して本日の日付や現在の時刻を取得して、それを表示する機能）とについては、カナ漢字変換部 3 0 が備えるという構成を採っている。

#### 【 0 0 4 7 】

なお、カナ漢字変換部 3 0 は、無変換キーや変換キーの操作に応じて、入力された文字の確定処理を実行したり、入力された文字に対する変換候補の表示処理を実行したりする点では、公知の技術と同様である。

#### 【 0 0 4 8 】

このように構成される本発明のコンピュータ装置 1 の持つ機能は具体的にはプログラムが実現されるものであり、このプログラムは、計算機が読み取り可能な半導体メモリなどの適当な記録媒体に格納することができる。

#### 【 0 0 4 9 】

図 5 に、検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 のファイル構造の一実施形態例、図 6 に、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 のファイル構造の一実施形態例、図 7 に、メールアドレス定義ファイル 3 7 のファイル構造の一実施形態例、図 8 に、プログラムパス定義ファイル 3 9 のファイル構造の一実施形態例を図示



する。

#### 【 0 0 5 0 】

検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 は、図 5 に示すように、指定されている検索サイトの名称を管理するとともに、ネットワーク 3 に接続される各検索サイトの名称とそれが持つ URL との対応関係を定義する。ここで、図 5 ( a ) は基本的なデータ構造を示し、図 5 ( b ) はデータの具体例を示している。

#### 【 0 0 5 1 】

ホームページアドレス定義ファイル 3 5 は、図 6 に示すように、キーワードとそのキーワードに割り付けられているホームページの URL との対応関係を定義する。例えば、「富士山」というキーワードには「富士山株式会社」のホームページの URL が割り付けられているといったような対応関係データを定義するのである。ここで、図 6 ( a ) は基本的なデータ構造を示し、図 6 ( b ) はデータの具体例を示している。

#### 【 0 0 5 2 】

メールアドレス定義ファイル 3 7 は、図 7 に示すように、キーワードとそのキーワードに割り付けられているメールアドレスとの対応関係を定義する。例えば、「富士山太郎」というキーワードには「富士山太郎」のメールアドレスが割り付けられているといったような対応関係データを定義するのである。ここで、図 7 ( a ) は基本的なデータ構造を示し、図 7 ( b ) はデータの具体例を示している。

#### 【 0 0 5 3 】

プログラムパス定義ファイル 3 9 は、図 8 に示すように、キーワードとそのキーワードに割り付けられているプログラムへのパス情報（そのプログラムを起動するための実行ファイルの情報）との対応関係を定義する。例えば、「電卓」というキーワードには電卓機能を持つ計算プログラムへのパス情報が割り付けられているといったような対応関係データを定義するのである。ここで、図 8 ( a ) は基本的なデータ構造を示し、図 8 ( b ) はデータの具体例を示している。

#### 【 0 0 5 4 】

なお、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 とメールアドレス定義ファイル

37とプログラムパス定義ファイル39とについては、同一のファイル構造を持つことから、図9に示すように同一のファイルに置くことが可能である。

【0055】

また、ホームページアドレス定義ファイル35のファイルデータと、メールアドレス定義ファイル37のファイルデータと、プログラムパス定義ファイル39のファイルデータについては、環境設定の際の1つの設定モードとして、図10に示すような対話画面を使ってユーザと対話することで設定することになる。

【0056】

この対話画面は、ブリッジメニュー画面における選択項目である「ホームページを開く」、「メールを出す」、「プログラムを起動」のそれぞれに対応する設定が可能である。

【0057】

この対話画面の上部には、設定を行う選択項目を切り替えるためのボタンが表示されており、選択されたボタンに応じて、対応する定義ファイルの内容（キーワードとそれに対応する情報）が表示され、その定義ファイルの編集作業が可能となる。

【0058】

また、この対話画面の下部には、編集作業の種類を指示するためのボタンが表示される。この図10における画面例では、キーワードと情報との対応関係を新規に登録するための「情報の追加」と、既に登録されているキーワードと情報との対応関係を削除するための「情報の削除」と、既に登録されているキーワードと情報との対応関係を変更するための「情報の変更」という3つのボタンを備えている。

【0059】

具体的には、「情報の追加」ボタンが選択されると入力画面がさらに表示され、所望のキーワードと情報との対応関係を入力することで新たな対応情報を定義ファイルに記述することが可能となる。また、表示されているキーワードと情報との対応関係を選択して「情報の削除」ボタンを選択することで、その選択された対応情報を定義ファイルから削除することが可能になる。また、表示されてい

るキーワードと情報との対応関係を選択して「情報の変更」ボタンを選択すると、その対応情報の内容を変更するための画面が表示され、定義ファイルに記述されている対応情報を変更することが可能になる。

#### 【 0 0 6 0 】

この対話画面を使った設定機能が用意されることで、ユーザは自分の希望する形で、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 やメールアドレス定義ファイル 3 7 やプログラムパス定義ファイル 3 9 のファイルデータを登録できるようになる。

#### 【 0 0 6 1 】

図 1 1 ないし図 2 0 に、カナ漢字変換部 3 0 が本発明を実現するために実行する処理フローの一実施形態例を図示する。次に、これらの処理フローに従って、本発明について詳細に説明する。

#### 【 0 0 6 2 】

先ず最初に、図 1 1 及び図 1 2 の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「インターネット検索」により実現されるインターネット検索処理について説明する。

#### 【 0 0 6 3 】

カナ漢字変換部 3 0 は、図 1 1 の処理フローに示すように、ステップ 0 1 で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ 0 2 で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ 0 3 で、検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 から、ユーザにより予め指定されている検索サイトの名称の取得を試みる。

#### 【 0 0 6 4 】

続いて、ステップ 0 4 で、この試みにより予め指定されている検索サイトの名称を取得できたのか否かを判断して、取得できなかったことを判断するときには、ステップ 0 5 に進んで、システム共通指定の検索サイトの名称を取得する。

#### 【 0 0 6 5 】

続いて、ステップ 0 6 で、取得した検索サイトの名称をキーにして検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 を参照することで、検索サイトアドレス定義ファイル

33から、その取得した検索サイトのURLの取得を試みる。

【0066】

続いて、ステップ07で、この試みにより検索サイトのURLを取得できたのか否かを判断して、取得できなかったことを判断するときには、ステップ08に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「インターネット検索」をグレー表示（非有効表示）し、一方、取得できたことを判断するときには、ステップ09に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「インターネット検索」を非グレー表示（有効表示）することで、ステップ10で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

【0067】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、検索サイトアドレス定義ファイル33を参照することで、インターネット検索を可能にする検索サイトを取得できるのか否かを判断して、取得できることを判断するときには、ブリッジメニュー画面の持つ「インターネット検索」を有効表示していくように処理するのである。

【0068】

なお、ブリッジメニュー画面の持つその他のメニュー項目を有効表示するのか否かについては、後述する処理フローで説明する方法により決定されることになる。

【0069】

一方、カナ漢字変換部30は、図12の処理フローに示すように、ステップ11で、「インターネット検索」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ12で、この「インターネット検索」が選択されることを検出すると、続いて、ステップ13で、図11の処理フローで取得した検索サイトのURLを取得する。

【0070】

続いて、ステップ14で、その取得した検索サイトのURLを解析する。すなわち、検索サイトのURLには、検索キーワードのエンコーディング形式を規定

する制御記号が付加されているので、その制御記号がどのようなエンコーディング形式（この実施形態例では、EUCエンコーディング形式とSJISエンコーディング形式という2種類を想定している）を規定しているのかを解析するのである。

## 【0071】

続いて、ステップ15で、その解析より制御記号がEUCエンコーディング形式を規定しているのか否かを判断して、EUCエンコーディング形式を規定していることを判断するとき（図5（b）に示すURLが“%EUC”を含む場合）には、ステップ16に進んで、図11の処理フローで入力したキーワード（未確定文字）をEUCエンコーディングし、一方、SJISエンコーディング形式を規定していることを判断するとき（図5（b）に示すURLが“%SJIS”を含む場合）には、ステップ17に進んで、そのキーワードをSJISエンコーディングする。

## 【0072】

このとき、キーワードに半角カタカナが存在する場合には、検索サイトの検索キーワードに対する要求に合わせて、それを全角カタカナに変換するといったような変換処理を行う。

## 【0073】

続いて、ステップ18で、取得した検索サイトのURLに付加される制御記号をそのエンコーディング結果に置換することで、その検索サイトを起動するためのURLを生成する。

## 【0074】

このようにして、図21に示すように、例えば、入力した「サンプル」という未確定文字を検索キーワードとして指定して検索サイトに対して検索要求を発行する場合には、検索サイトのURLに付加される制御記号に従って、この「サンプル」を例えばEUCエンコーディングして制御記号と置換することで、その検索サイトを起動するためのURLを生成するように処理するのである。

## 【0075】

続いて、ステップ19で、その生成したURLを通知しつつ、オペレーティン

グシステムに対してブラウザ 3 4 の起動を指示することで、検索サイトの検索ページを閲覧する処理を行うブラウザ 3 4 を起動し、続くステップ 2 0 で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

## 【 0 0 7 6 】

このようにして、カナ漢字変換部 3 0 は、ブリッジメニュー画面の持つ「インターネット検索」が選択されると、検索サイトアドレス定義ファイル 3 3 に登録される URL を使って、入力した未確定文字を検索キーワードとして指定しつつ検索サイトに対して検索要求を発行していくことで、図 2 2 に示すように、検索サイトにより得られるその未確定文字に関する検索情報をディスプレイ画面上に表示していくように処理するのである。

## 【 0 0 7 7 】

この処理に従って、ユーザは、文字を入力中に、インターネット検索を使ってその文字に関する情報を簡単に取得できるようになる。

## 【 0 0 7 8 】

次に、図 1 3 の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「ホームページを開く」により実現されるホームページ閲覧処理について説明する。

## 【 0 0 7 9 】

カナ漢字変換部 3 0 は、図 1 3 ( a ) の処理フローに示すように、ステップ 2 1 で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ 2 2 で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ 2 3 で、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 に、そのキーワード（未確定文字）が登録されているのか否かを検索する。

## 【 0 0 8 0 】

続いて、ステップ 2 4 で、この検索によりキーワードが登録されているのか否かを判断して、登録されていることを判断するときには、ステップ 2 5 に進んで、ホームページアドレス定義ファイル 3 5 から、そのキーワードに対応付けられるホームページの URL を取得し、一方、登録されていなかったことを判断するときには、このステップ 2 5 の処理を省略する。

## 【 0 0 8 1 】

続いて、ステップ 26 で、ホームページの URL を取得できたのか否かを判断して、取得できなかったことを判断するときには、ステップ 27 に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「ホームページを開く」をグレー表示（非有効表示）し、一方、取得できたことを判断するときには、ステップ 28 に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「ホームページを開く」を非グレー表示（有効表示）することで、ステップ 29 で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

## 【 0 0 8 2 】

このようにして、カナ漢字変換部 30 は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、ホームページアドレス定義ファイル 35 に、その未確定の文字に対応付けられるホームページが登録されているのか否かを判断して、登録されているときには、ブリッジメニュー画面の持つ「ホームページを開く」を有効表示していくように処理するのである。

## 【 0 0 8 3 】

一方、カナ漢字変換部 30 は、図 13（b）の処理フローに示すように、ステップ 31 で、「ホームページを開く」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ 32 で、この「ホームページを開く」が選択されることを検出すると、続いて、ステップ 33 で、図 13（a）の処理フローで取得したホームページの URL を取得する。

## 【 0 0 8 4 】

続いて、ステップ 34 で、その取得した URL を通知しつつ、オペレーティングシステムに対してブラウザ 36 の起動を指示することで、ホームページを閲覧する処理を行うブラウザ 36 を起動し、続くステップ 35 で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

## 【 0 0 8 5 】

このようにして、カナ漢字変換部 30 は、ブリッジメニュー画面の持つ「ホームページを開く」が選択されると、ホームページアドレス定義ファイル 35 に登録される URL を使って、入力した未確定文字に対応付けられるホームページの閲覧要求を発行していくことで、図 23 に示すように、その未確定文字に対応付けられるホームページをディスプレイ画面上に表示していくように処理するので

ある。

【0086】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字に対応付けられるホームページに簡単にアクセスできるようになる。

【0087】

ブリッジメニュー画面の持つ「メールを出す」により実現されるメール送信処理は、図13の処理フローにより実現されるホームページ閲覧処理と同様の処理により実現されることになる。

【0088】

すなわち、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、メールアドレス定義ファイル37に、その未確定の文字に対応付けられるメールアドレスが登録されているのか否かを判断して、登録されているときには、ブリッジメニュー画面の持つ「メールを出す」を有効表示していくように処理する。

【0089】

そして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「メールを出す」が選択されると、メールアドレス定義ファイル37に登録されるメールアドレスを宛先として設定しつつ、メールソフト38を起動することで、図24に示すように、その未確定文字に対応付けられるメールアドレスを宛先とするメール送信画面をディスプレイ画面上に表示していくように処理するのである。

【0090】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字に対応付けられるメールアドレスに対して簡単にメールを送信できるようになる。

【0091】

また、ブリッジメニュー画面の持つ「プログラムを起動」により実現されるプログラム起動処理は、図13の処理フローにより実現されるホームページ閲覧処理と同様の処理により実現されることになる。

【0092】

すなわち、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブ



ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、プログラムパス定義ファイル39に、その未確定の文字に対応付けられるプログラムパス情報（そのプログラムを起動するための実行ファイルの情報）が登録されているのか否かを判断して、登録されているときには、ブリッジメニュー画面の持つ「プログラムを起動」を有効表示していくように処理する。

#### 【0093】

そして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「プログラムを起動」が選択されると、プログラムパス定義ファイル39に登録されるプログラムパス情報に従って、その未確定文字に対応付けられるプログラム（例えば、「電卓」という未確定文字に対応付けられる電卓機能を持つ計算プログラムや、「メモ」という未確定文字に対応付けられるメモ作成機能を持つプログラム）を起動することで、図25に示すように、そのプログラムの処理画面をディスプレイ画面上に表示していくように処理するのである。

#### 【0094】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字に対応付けられるプログラムを起動できるようになることで、文字入力中に必要となる処理を行うプログラムを簡単に起動できるようになる。

#### 【0095】

次に、図14の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」により実現される変換処理について説明する。

#### 【0096】

カナ漢字変換部30は、図14（a）の処理フローに示すように、ステップ41で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ42で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ43で、クイック和英の変換プログラムがインストール済みであるのか否かをチェックする。

#### 【0097】

続いて、ステップ44で、このチェックによりクイック和英の変換プログラムがインストールされているのか否かを判断して、インストールされていることを

判断するときには、ステップ45に進んで、入力した未確定の文字の和英変換が実行可能であるのか否かをチェックする。

## 【0098】

すなわち、クイック和英の変換プログラムについては、入力した文字に対して変換操作（「変換キー」を押下する操作）を行った文字状態でないと和英変換が実行できないようにしているので、入力した文字の状態がこの文字状態にあるのか否かをチェックするとともに、入力した文字の状態がこの文字状態にある場合には、入力した文字が和英変換の辞書（図4では図示を省略）に登録されているのか否かをチェックすることで、入力した未確定の文字の和英変換が実行可能であるのか否かをチェックするのである。

## 【0099】

続いて、ステップ46で、このチェックにより和英変換が実行可能であるのか否かを判断して、実行可能にないことを判断するときには、ステップ47に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」をグレー表示（非有効表示）し、一方、実行可能にあることを判断するときには、ステップ48に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」を非グレー表示（有効表示）することで、ステップ49で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

## 【0100】

そして、ステップ44で、クイック和英の変換プログラムがインストールされていないことを判断するときには、ステップ47に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」をグレー表示（非有効表示）することで、ステップ49で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

## 【0101】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、その入力した未確定の文字の和英変換が実行可能であるのか否かを判断して、和英変換が実行可能な場合には、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」を有効表示していくように処理するのである。

## 【0102】

一方、カナ漢字変換部 30 は、図 14 (b) の処理フローに示すように、ステップ 51 で、「クイック和英」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ 52 で、この「クイック和英」が選択されることを検出すると、続いて、ステップ 53 で、クイック和英の変換プログラムを使って、入力した未確定文字に対応する英語情報を取得してそれを文字入力画面上に表示し、続くステップ 54 で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

#### 【0103】

このようにして、カナ漢字変換部 30 は、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック和英」が選択されると、クイック和英の変換プログラムを使って、入力した未確定文字に対応する英語情報を取得して、それを文字入力画面上に表示していくように処理するのである。

#### 【0104】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字の英語情報を簡単に参照できるようになる。

#### 【0105】

ブリッジメニュー画面の持つ「クイック類義語」により実現される類義語への変換処理は、図 14 の処理フローにより実現される和英変換処理と同様の処理により実現されることになる。

#### 【0106】

すなわち、カナ漢字変換部 30 は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、その入力した未確定の文字の類義語への変換が実行可能（類義語への変換プログラムがインストールされていて、かつ、入力した文字が規定の文字状態にあって、かつ、類義語が辞書に登録されているときに実行可能になる）であるのか否かを判断して、類義語への変換が実行可能な場合には、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック類義語」を有効表示していくように処理する。

#### 【0107】

そして、カナ漢字変換部 30 は、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック類義

語」が選択されると、クイック類義語の変換プログラムを使って、入力した未確定文字に対応する類義語情報を取得して、それを文字入力画面上に表示していくように処理するのである。

#### 【0108】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字の類義語情報を簡単に参照できるようになる。

#### 【0109】

また、ブリッジメニュー画面の持つ「郵便番号変換」により実現される住所情報への変換処理は、図14の処理フローにより実現される和英変換処理と同様の処理により実現されることになる。

#### 【0110】

すなわち、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力（郵便番号に相当する文字を入力）した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、その入力した未確定の文字の指す住所情報への変換が実行可能（住所情報への変換プログラムがインストールされていて、かつ、入力した文字が規定の文字状態にあって、かつ、住所情報が辞書に登録されているときに実行可能になる）であるのか否かを判断して、住所情報への変換が実行可能な場合には、ブリッジメニュー画面の持つ「郵便番号変換」を有効表示していくように処理する。

#### 【0111】

そして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「郵便番号変換」が選択されると、郵便番号変換の変換プログラムを使って、入力した郵便番号に相当する未確定文字に対応付けられる住所情報を取得して、それを文字入力画面上に表示していくように処理するのである。

#### 【0112】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字を郵便番号として持つ住所情報を簡単に参照できるようになる。

#### 【0113】

なお、ユーザは、このようにして表示される住所情報でよいことを確認すると、入力した郵便番号に相当する未確定な文字を、この住所情報に置き換えること

ができるようになっている。

【 0 1 1 4 】

次に、図 1 5 の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック単漢字」により実現される変換処理について説明する。

【 0 1 1 5 】

カナ漢字変換部 3 0 は、図 1 5 ( a ) の処理フローに示すように、ステップ 6 1 で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ 6 2 で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ 6 3 で、入力した未確定の文字の単漢字変換が実行可能であるのか否かをチェックする。

【 0 1 1 6 】

すなわち、単漢字変換の変換プログラムについては常にインストールしているので、ここでは、入力した文字の状態が単漢字変換可能な文字状態にあるのか否かをチェックするとともに、入力した文字の状態が単漢字変換可能な文字状態にある場合には、入力した文字が単漢字変換の辞書（図 4 では図示を省略）に登録されているのか否かをチェックすることで、入力した未確定の文字の単漢字変換が実行可能であるのか否かをチェックするのである。

【 0 1 1 7 】

続いて、ステップ 6 4 で、このチェックにより単漢字変換が実行可能であるのか否かを判断して、実行可能にないことを判断するときには、ステップ 6 5 に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック単漢字」をグレー表示（非有効表示）し、一方、実行可能にあることを判断するときには、ステップ 6 6 に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック単漢字」を非グレー表示（有効表示）することで、ステップ 6 7 で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

【 0 1 1 8 】

このようにして、カナ漢字変換部 3 0 は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、その入力した未確定の文字の単漢字変換が実行可能であるのか否かを判断して、単漢字変換が実行可能な場合には、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック単漢字」を有効表示していくよ

うに処理するのである。

#### 【 0 1 1 9 】

一方、カナ漢字変換部 3 0 は、図 1 5 ( b ) の処理フローに示すように、ステップ 7 1 で、「クイック単漢字」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ 7 2 で、この「クイック単漢字」が選択されることを検出すると、続いて、ステップ 7 3 で、クイック単漢字の変換プログラムを使って、入力した未確定の単漢字の持つ情報を取得してそれを文字入力画面上に表示し、続くステップ 7 4 で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

#### 【 0 1 2 0 】

このようにして、カナ漢字変換部 3 0 は、ブリッジメニュー画面の持つ「クイック単漢字」が選択されると、クイック単漢字の変換プログラムを使って、入力した未確定の単漢字の持つ情報を取得して、図 2 6 に示すように、それを文字入力画面上に表示していくように処理するのである。

#### 【 0 1 2 1 】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、その入力中の文字の単漢字情報を簡単に参照できるようになる。

#### 【 0 1 2 2 】

次に、図 1 6 の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「日付変換」により実現される変換処理について説明する。

#### 【 0 1 2 3 】

カナ漢字変換部 3 0 は、図 1 6 ( a ) の処理フローに示すように、ステップ 8 1 で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ 8 2 で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ 8 3 で、入力した未確定の文字を日付情報へ変換可能であるのか否かをチェックする。

#### 【 0 1 2 4 】

すなわち、日付変換の変換プログラムにはついては常にインストールしているので、ここでは、入力した文字の状態が日付変換可能な文字状態（例えば、変換

操作を行う前の文字状態)にあるのか否かをチェックするとともに、その文字の内容が日付変換可能な規定の文字内容(例えば、「ひづけ」とか「じこく」など)であるのか否かをチェックすることで、入力した未確定の文字を日付情報へ変換可能であるのか否かをチェックするのである。

#### 【0125】

続いて、ステップ84で、このチェックにより日付情報への変換が実行可能であるのか否かを判断して、実行可能にないことを判断するときには、ステップ85に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「日付変換」をグレー表示(非有効表示)し、一方、実行可能にあることを判断するときには、ステップ86に進んで、ブリッジメニュー画面の持つ「日付変換」を非グレー表示(有効表示)することで、ステップ87で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。

#### 【0126】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ユーザが未確定の文字を入力した後に、ブリッジメニュー画面の表示要求を発行すると、その入力した未確定の文字を日付情報へ変換可能であるのか否かを判断して、日付情報への変換が可能な場合には、ブリッジメニュー画面の持つ「日付変換」を有効表示していくように処理するのである。

#### 【0127】

一方、カナ漢字変換部30は、図16(b)の処理フローに示すように、ステップ91で、「日付変換」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ92で、この「日付変換」が選択されることを検出すると、続いて、ステップ93で、日付変換の変換プログラムを使って、入力した「ひづけ」という未確定文字に応じて本日の日付情報を取得したり、入力した「じこく」という未確定文字に応じて現在の時刻情報を取得して文字入力画面上に表示し、続くステップ94で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

#### 【0128】

なお、現在の日付情報や時刻情報は、コンピュータ装置の内蔵時計から取得できることは一般的に知られていることである。

## 【0129】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「日付変換」が選択されると、日付変換の変換プログラムを使って、入力した「ひづけ」という未確定の文字から本日の日付情報を取得したり、入力した「じこく」という未確定の文字から現在の時刻情報を取得して、それを文字入力画面上に表示していくように処理するのである。

## 【0130】

この処理に従って、ユーザは、文字の入力中に、本日の日付情報や現在の時刻情報を簡単に取得できるようになる。

## 【0131】

なお、ユーザは、このようにして表示される日付情報などでよいことを確認すると、入力した「ひづけ」などの未確定な文字を、この日付情報に置き換えることができるようになっている。

## 【0132】

次に、図17ないし図20の処理フローに従って、ブリッジメニュー画面の持つ「辞書を引く」により実現される辞書検索処理について説明する。

## 【0133】

カナ漢字変換部30は、図17(a)の処理フローに示すように、ステップ110で、ユーザから未確定の文字（キーワードとなる）を入力し、続くステップ120で、ブリッジメニュー画面の表示要求のキー操作を検出すると、続いて、ステップ130で、図4に示した辞書情報取得部31に依頼してインストールされている辞書情報を取得する。

## 【0134】

続いて、ステップ140で、インストールされている辞書情報を取得できたのか否かを判断して、取得できたことを判断するときには、ステップ150に進んで、インストールされている辞書の名称の一覧を取得する。続いて、ステップ160で、ブリッジメニュー画面に「～を引く」という表示域を設けて、そこに取得した辞書名称の一覧を表示することで、ステップ170で示すように、ブリッジメニュー画面を表示する。



## 【0135】

このようにして、カナ漢字変換部30は、未確定な文字を入力した後に、ユーザから表示要求があると、図3に示すように、「国語辞書を引く」や「和英辞書を引く」や「英和辞書を引く」や「科学・技術用語辞典を引く」や「現代用語辞典を引く」というメニュー項目を持つブリッジメニュー画面を表示するのである。

## 【0136】

一方、カナ漢字変換部30は、図17(b)の処理フローに示すように、ステップ210で、「～引く」を有効表示しつつブリッジメニュー画面を表示しているときに、続くステップ220で、この「～引く」の一覧からマウスにより検索対象の辞書が選択されることを検出すると、続いて、ステップ230で、図17(a)の処理フローで取得した辞書情報の中から、その選択された検索対象の辞書の情報を取得する。

## 【0137】

続いて、ステップ240で、その取得した検索対象の辞書の情報を処理対象として設定し、続くステップ250で、入力した未確定の文字（キーワード）を検索文字列として設定する。続いて、ステップ260で、それらの設定情報を通知しつつ辞書検索アプリ32に対して検索開始を指示し、続くステップ270で、ブリッジメニュー画面を消去して、処理を終了する。

## 【0138】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「～引く」の一覧の中に記述される辞書が選択されると、その辞書を検索対象として、辞書検索アプリ32に対して、入力した未確定な文字の指す辞書データの検索を指示するように処理するのである。

## 【0139】

これを受けて、辞書検索アプリ32は、図18の処理フローに示すように、ステップ310で、カナ漢字変換部30から検索指示を受け取ると、続くステップ320で、カナ漢字変換部30が処理対象として設定した辞書情報を取得し、続くステップ330で、検索ダイアログ（検索対象の辞書に対応付けて表示する）

を表示中であるのか否かをチェックする。

【 0 1 4 0 】

続いて、ステップ 3 4 0 で、このチェックにより検索ダイアログが表示中であるのか否かを判断して、表示中であることを判断するときには、ステップ 3 5 0 に進んで、表示中の検索ダイアログが検索対象とする辞書情報を取得する。続いて、ステップ 3 6 0 で、ステップ 3 2 0 で取得した辞書情報とステップ 3 5 0 で取得した辞書情報とを比較する。

【 0 1 4 1 】

続いて、ステップ 3 7 0 で、この比較により辞書情報が一致するのか否かを判断して、一致しないことを判断するときには、新たな辞書を検索対象とする検索要求であることを判断して、ステップ 3 8 0 に進んで、その新たな辞書情報に対応させて新たに検索ダイアログを表示し、続くステップ 3 9 0 で、新たに表示した検索ダイアログの取り扱う検索対象辞書として、ステップ 3 2 0 で取得した辞書情報を設定する。

【 0 1 4 2 】

一方、ステップ 3 4 0 で、検索ダイアログを表示中でないことを判断するときには、直ちにステップ 3 8 0 に進んで、ステップ 3 2 0 で取得した辞書情報に対応させて新たに検索ダイアログを表示し、続くステップ 3 9 0 で、新たに表示した検索ダイアログの取り扱う検索対象辞書として、ステップ 3 2 0 で取得した辞書を設定する。

【 0 1 4 3 】

そして、ステップ 3 7 0 で、辞書情報が一致することを判断するときには、ステップ 3 8 0 及びステップ 3 9 0 の処理を省略する。

【 0 1 4 4 】

続いて、ステップ 4 0 0 で、カナ漢字変換部 3 0 が設定した検索文字列を取得し、続くステップ 4 1 0 で、表示中の全ての検索ダイアログで辞書検索処理を実行し、続くステップ 4 2 0 で、その検索結果をディスプレイ画面に表示して、処理を終了する。

【 0 1 4 5 】

この辞書検索アプリ32の検索処理を受けて、カナ漢字変換部30は、図19の処理フローに示すように、辞書検索アプリ32に対して検索開始を指示し、それに続けて、ブリッジメニュー画面を消去した後、ユーザ操作に応答して、入力した未確定な文字を確定させたりキャンセルするときには、辞書検索アプリ32に対して検索終了を要求して、次の文字の待ち状態に入る。

## 【0146】

そして、辞書検索アプリ32は、この検索終了指示を受けて、図20の処理フローに示すように、検索ダイアログの表示状態をチェックして、検索ダイアログを表示中である場合には、全ての検索ダイアログを閉じてから、次の検索要求の待ち状態に入る。

## 【0147】

このようにして、カナ漢字変換部30は、ブリッジメニュー画面の持つ「～引く」の一覧の中に記述される辞書が選択されると、その辞書を検索対象として、辞書検索アプリ32に対して、入力した未確定の文字の指す辞書データの検索を指示することで、その辞書データをディスプレイ画面上に表示していくように処理するのである。

## 【0148】

そして、カナ漢字変換部30は、ユーザの入力操作に応答して、入力した未確定な文字を確定させたりキャンセルするときには、それと同期をとって、辞書検索アプリ32の検索処理を終了させていくように処理するのである。

## 【0149】

例えば、図27に示すように、「逢う」という未確定の文字を入力したときに、ブリッジメニュー画面の中から「国語辞書を引く」というメニュー項目が選択されると、図28に示すように、国語辞書から検索される「逢う」の辞書データをディスプレイ画面に表示する。

## 【0150】

続いて、変換キーが例えば3回押下されるときに表示する変換候補リストの中から「合う」が選択されると、図29に示すように、「逢う」の辞書データに代えて、国語辞書から検索される「合う」の辞書データをディスプレイ画面に表示

する。

【 0 1 5 1 】

続いて、「和英辞書を引く」というメニュー項目が選択されると、図 3 0 に示すように、国語辞書から検索される「合う」の辞書データとともに、和英辞書から検索される「合う」の辞書データをディスプレイ画面に表示する。

【 0 1 5 2 】

そして、「合う」に続けて「のは」という文字を入力することで「合う」という文字を確定させると、図 3 1 に示すように、辞書検索アプリ 3 2 の検索処理を終了させていくように処理するのである。

【 0 1 5 3 】

ここで、上述しなかったが、カナ漢字変換部 3 0 は、辞書検索アプリ 3 2 を起動したときばかりでなく、クイック和英などの変換系のプログラムを起動したときにも、ユーザ操作に応答して、入力した未確定の文字を確定させたりキャンセルするときには、それらの機能を終了させていくことで、簡単なユーザ操作により、それらの機能を終了させることができるようにしている。

【 0 1 5 4 】

なお、ブラウザ 3 4， 3 6 やメールソフト 3 8 やプログラム 4 0 についても、同様に未確定文字の確定やキャンセルに応じて終了させるようにする構成を採ることも可能である。

【 0 1 5 5 】

最後に、図 3 2 ないし図 3 5 に従って、本発明により実行される辞書検索処理について補足説明を行う。

【 0 1 5 6 】

カナ漢字変換部 3 0 は、図 3 2 に示すように、ブリッジメニュー画面の持つ「～引く」の一覧の中に記述される辞書が選択されると、辞書検索アプリ 3 2 が起動済みであるのか否かを判断して、図中の①で示すように、辞書検索アプリ 3 2 が起動済みでないことを判断する場合には、辞書検索アプリ 3 2 を起動してから、辞書検索アプリ 3 2 に対して検索要求を発行する。

【 0 1 5 7 】

この検索要求を受けて、辞書検索アプリ 32 は、図中の②で示すように、検索ダイアログを表示していないときには、それを表示して検索を行う。

## 【0158】

それについて、カナ漢字変換部 30 は、図 33 に示すように、ブリッジメニュー画面の持つ「～引く」の一覧の中に記述される辞書が選択されると、辞書検索アプリ 32 が起動済みであるのか否かを判断して、辞書検索アプリ 32 が起動済みであることを判断する場合には、直ちに、辞書検索アプリ 32 に対して検索要求を発行する。

## 【0159】

この検索要求を受けて、辞書検索アプリ 32 は、検索ダイアログを表示しているときには、表示中の検索ダイアログが検索対象とする辞書情報と、検索要求で指定された辞書情報とが一致するのか否かを判断して、図中の③で示すように、両者の辞書情報が一致することを判断するときには、その表示中の検索ダイアログにて検索処理を行って検索結果を表示する。

## 【0160】

それに続けて、カナ漢字変換部 30 は、図 34 に示すように、ブリッジメニュー画面の持つ「～引く」の一覧の中に記述される辞書が選択されると、辞書検索アプリ 32 が起動済みであるのか否かを判断して、辞書検索アプリ 32 が起動済みであることを判断する場合には、直ちに、辞書検索アプリ 32 に対して検索要求を発行する。

## 【0161】

この検索要求を受けて、辞書検索アプリ 32 は、検索ダイアログを表示しているときには、表示中の検索ダイアログが検索対象とする辞書情報と、検索要求で指定された辞書情報とが一致するのか否かを判断して、図中の④で示すように、両者の辞書情報が一致しないことを判断するときには、新しく検索ダイアログを表示して、表示中の全ての検索ダイアログにて検索処理を行って検索結果を表示する。

## 【0162】

それに続けて、カナ漢字変換部 30 は、図 35 の⑤に示すように、ユーザ操作

に応答してキーワードをカナ文字から漢字に変換すると、検索ダイアログが表示中であるのか否かを判断して、検索ダイアログが表示中であることを判断するときには、図中の⑥で示すように、その変換したキーワードを設定して、辞書検索アプリ 3 2 に対して検索要求を発行する。

## 【 0 1 6 3 】

この検索要求を受けて、辞書検索アプリ 3 2 は、図中の⑦で示すように、その変換されたキーワードを取得し、表示中の全ての検索ダイアログによって検索処理を行って検索結果を表示する。

## 【 0 1 6 4 】

それに続けて、カナ漢字変換部 3 0 は、ユーザ操作に応答してキーワードを確定させると、図中の⑧に示すように、辞書検索アプリ 3 2 に対して検索終了要求を発行し、これを受けて、辞書検索アプリ 3 2 は、全ての検索ダイアログを閉じて、処理を終了する。

## 【 0 1 6 5 】

なお、本発明におけるブリッジメニュー画面で指定された項目に従って起動されたプログラムの終了処理は、そのプログラムによる表示を単に画面上から消去させる処理も含むものである。すなわち、本発明における他プログラムの終了処理においては、起動された他のプログラムにより表示されるダイアログ、ウィンドウなど、文字入力の妨げとなるそれらの表示をディスプレイ画面上から消去できればよいものである。

## 【 0 1 6 6 】

〔付記 1〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、上記キーワードが検出される場合に、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する表示手段と、上記メニュー画面を使って辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行する発行手段とを備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 6 7 】

〔付記 2〕 付記 1 記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、上記発行手段は、上記入力文字を処理対象とした確定指示が行われるまでの間に選択される複数の辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行することを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 6 8 】

〔付記 3〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、上記キーワードが検出される場合に、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、上記メニュー画面を使ってプログラムが選択される場合に、上記キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動する起動手段とを備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 6 9 】

〔付記 4〕 付記 3 記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、対話処理に従って、上記キーワードとそれに対応付けられる属性値との対応関係のデータを登録する登録手段を備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 7 0 】

〔付記 5〕 付記 3 又は 4 記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、上記表示手段は、上記キーワードでは起動不可能な状態にあるプログラムについては、その旨が分かる形態で上記メニュー画面を表示することを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 7 1 】

〔付記 6〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、上記キーワードが検出される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する表示手段と、上記メニュー画面を使ってプログラムの起動要求が発行される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムを起動する起動手段とを備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【0172】

〔付記7〕付記6記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、対話処理に従って、上記キーワードとプログラムを起動するための情報との対応関係のデータを登録する登録手段を備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【0173】

〔付記8〕文字入力機能を持つコンピュータ装置において、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出手段と、上記キーワードが検出される場合に、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示手段と、上記メニュー画面を使って変換プログラムが選択される場合に、上記キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動する起動手段とを備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【0174】

〔付記9〕付記8記載の文字入力機能を持つコンピュータ装置において、上記表示手段は、上記キーワードでは変換不可能な状態にある変換プログラムについては、その旨が分かる形態で上記メニュー画面を表示することを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【0175】

〔付記10〕付記1ないし5のいずれか1項に記載される文字入力機能を持つコンピュータ装置において、上記入力文字を処理対象とした確定指示が行われる場合に、上記メニュー画面の選択に応答して動作させたプログラムを終了させる終了手段を備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【0176】

〔付記11〕文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、上記キーワードが検出される場合に、登録されている辞書について記述するメニュー画面を表示する表示処理と、上記メニュー画面を使って辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、その選択された辞書を検索対象として、上記キーワードの指す辞書データの検索要求を発行する発



行処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、特徴とするプログラム記録媒体。

## 【 0 1 7 7 】

〔付記 1 2〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、上記キーワードが検出される場合に、登録されているプログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示処理と、上記メニュー画面を使ってプログラムが選択される場合に、上記キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、その選択されたプログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、特徴とするプログラム記録媒体。

## 【 0 1 7 8 】

〔付記 1 3〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、上記キーワードが検出される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムの起動用に用いられるメニュー画面を表示する表示処理と、上記メニュー画面を使ってプログラムの起動要求が発行される場合に、上記キーワードに対応付けられるプログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、特徴とするプログラム記録媒体。

## 【 0 1 7 9 】

〔付記 1 4〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、上記キーワードが検出される場合に、登録されている変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する表示処理と、上記メニュー画面を使って変換プログラムが選択される場合に、上記キーワードを変換対象として、その選択された変換プログラムを起動する起動処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、特徴とするプログラム記録媒体。

## 【 0 1 8 0 】

〔付記 1 5〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置において、入力された文字

から特定されるキーワードを検出する検出手段と、上記キーワードが検出された状態での所定の操作にตอบสนองしてメニュー画面を表示する表示手段と、上記メニュー画面の中から選択された項目に応じて上記キーワードを用いた処理を実行する実行手段とを備えることを、特徴とする文字入力機能を持つコンピュータ装置。

## 【 0 1 8 1 】

〔付記 1 6〕 文字入力機能を持つコンピュータ装置で用いられるプログラムを記録したプログラム記録媒体であって、入力された文字から特定されるキーワードを検出する検出処理と、上記キーワードが検出された状態での所定の操作にตอบสนองしてメニュー画面を表示する表示処理と、上記メニュー画面の中から選択された項目に応じて上記キーワードを用いた処理を実行する実行処理とをコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを、特徴とするプログラム記録媒体。

## 【 0 1 8 2 】

図示実施例に従って本発明を説明したが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、本実施の形態例では、日本語入力機能を持つコンピュータ装置を具体例にして本発明を説明したが、本発明は、英語入力機能といったようなその他の言語入力機能を持つコンピュータ装置に対してもそのまま適用できる。

## 【 0 1 8 3 】

また、本実施の形態例では、日本語処理（カナ漢字変換処理）を具体例として、入力した文字に対する変換が確定していない状態の文字を未確定文字とし、それをキーワードとしているが、本発明の適用範囲はこれに限定されるものではない。例えば、入力文字の変換操作を行う必要のない英文の入力の場合には、ブリッジメニュー画面を表示する指示が発行されたときに、文字入力用カーソルの現在位置から遡った最初の空白までに含まれる文字列を本発明でのキーワードとして特定して、上述したような処理を実行するように構成すればよい。また、この例での上述の確定操作に関しては、単語を区切るために用いる空白の入力操作を確定操作とみなせばよい。

## 【 0 1 8 4 】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字の持つ意味な

どを辞書で確かめたいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

【0185】

そして、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字を検索キーワードにしてインターネット上のWebページを検索したいとか、入力中の会社名の会社のホームページにアクセスしたいとか、入力中の名前の人に電子メールを送信したいと希望するときなどに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

【0186】

そして、本発明によれば、ユーザは、文字入力中にあるプログラムを起動したいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

【0187】

そして、本発明によれば、ユーザは、入力中の文字の類義語などのような変換データを知りたいと希望するときに、実行中の文字入力機能を持つプログラムを用いた作業を中断させて他のプログラムを起動させるという作業をすることなく、それを実現できるようになる。

【0188】

このようにして、本発明によれば、ユーザは、文字入力中に、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行できるようになるので、文字入力を使って遂行する業務を効率的に実行できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明のコンピュータ装置の適用されるシステムの説明図である。

【図2】

本発明のコンピュータ装置のハードウェア構成の説明図である。

【図 3】

ブリッジメニュー画面の一実施形態例である。

【図 4】

本発明のコンピュータ装置の一実施形態例である。

【図 5】

検索サイトアドレス定義ファイルのファイル構造の一実施形態例である。

【図 6】

ホームページアドレス定義ファイルのファイル構造の一実施形態例である。

【図 7】

メールアドレス定義ファイルのファイル構造の一実施形態例である。

【図 8】

プログラムパス定義ファイルのファイル構造の一実施形態例である。

【図 9】

ファイル構成の説明図である。

【図 1 0】

対話画面の説明図である。

【図 1 1】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 2】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 3】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 4】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 5】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 6】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 7】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 8】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 1 9】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 2 0】

カナ漢字変換部の実行する処理フローの一実施形態例である。

【図 2 1】

検索サイトのURLの変換方法の説明図である。

【図 2 2】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 3】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 4】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 5】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 6】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 7】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 8】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 2 9】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 3 0】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 3 1】

ディスプレイ画面の説明図である。

【図 3 2】

辞書検索処理の説明図である。

【図 3 3】

辞書検索処理の説明図である。

【図 3 4】

辞書検索処理の説明図である。

【図 3 5】

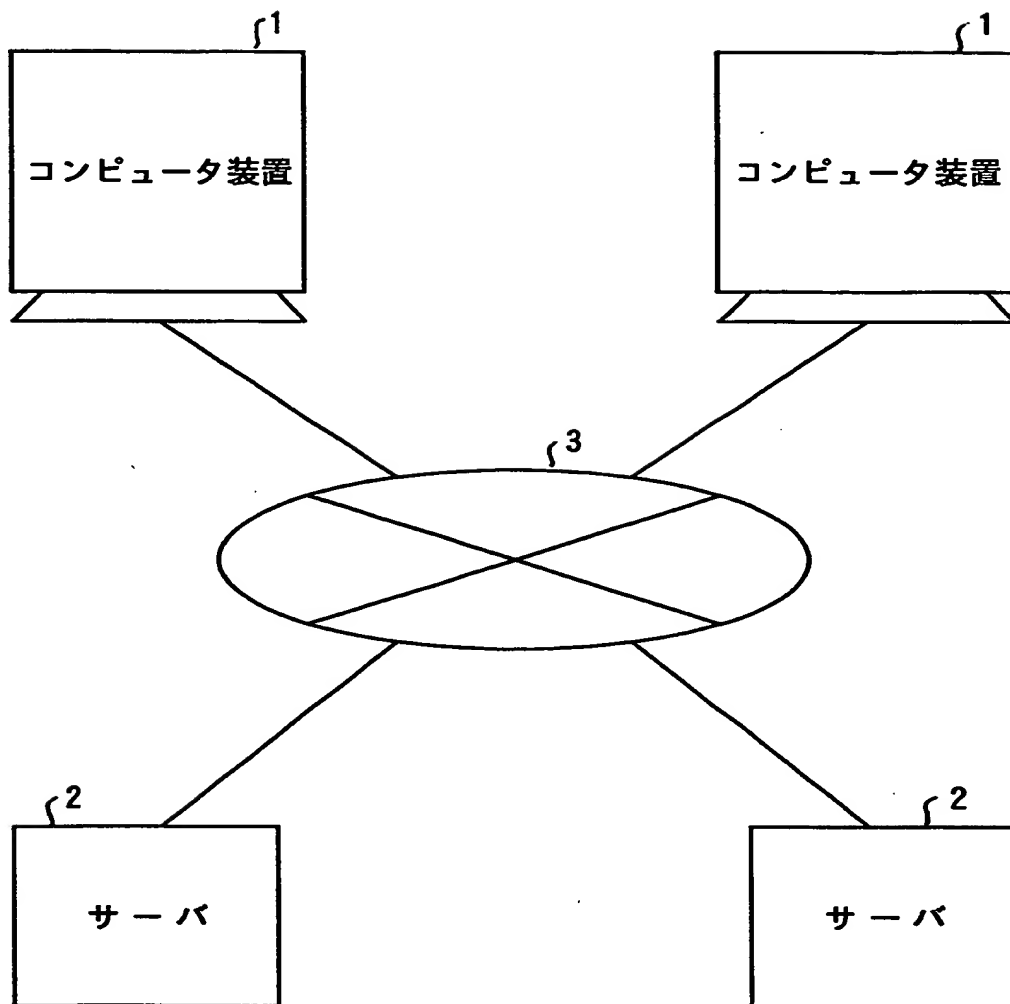
辞書検索処理の説明図である。

【符号の説明】

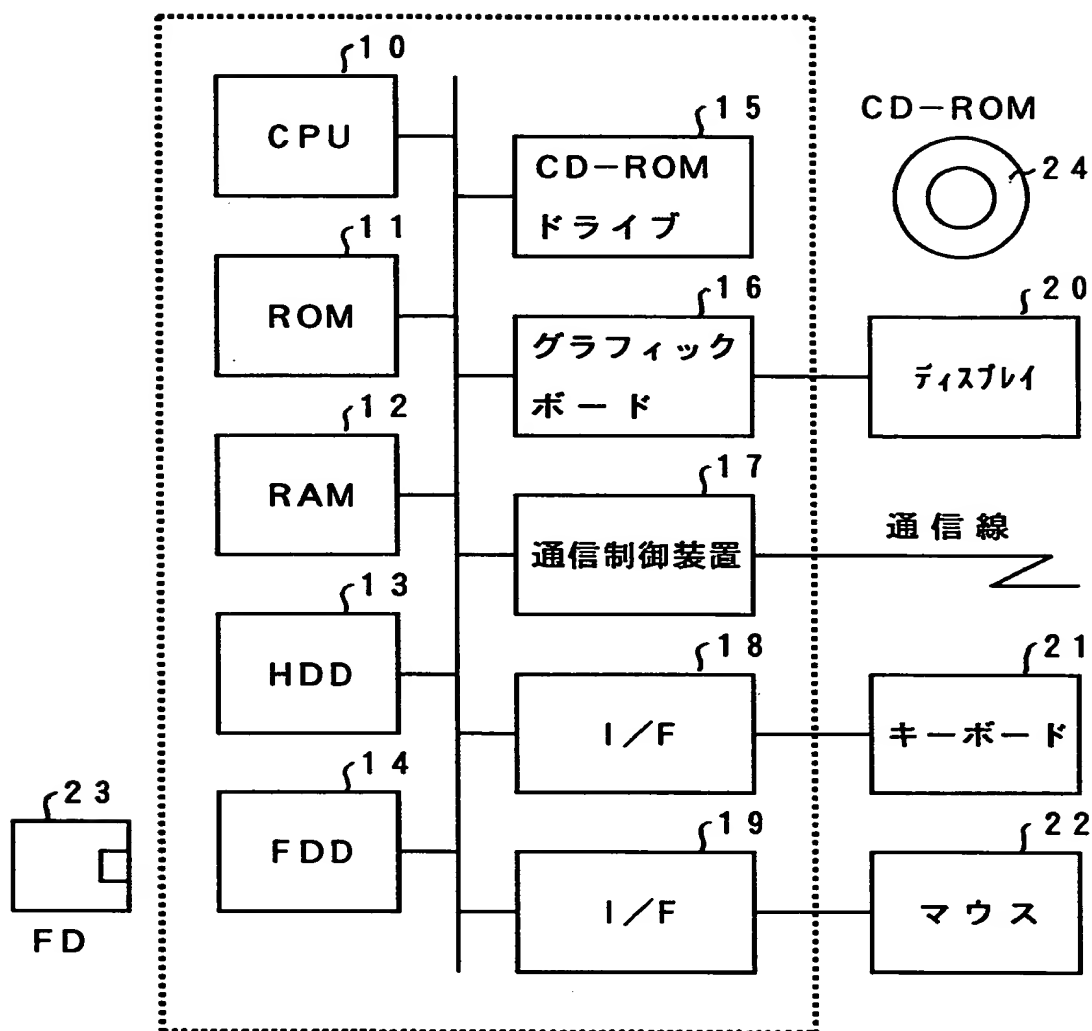
- 1 コンピュータ装置
- 30 カナ漢字変換部
- 31 辞書情報取得部
- 32 辞書検索アプリ
- 33 検索サイトアドレス定義ファイル
- 34 ブラウザ
- 35 ホームページアドレス定義ファイル
- 36 ブラウザ
- 37 メールアドレス定義ファイル
- 38 メールソフト
- 39 プログラムパス定義ファイル
- 40 プログラム

【書類名】 図面

【図 1】

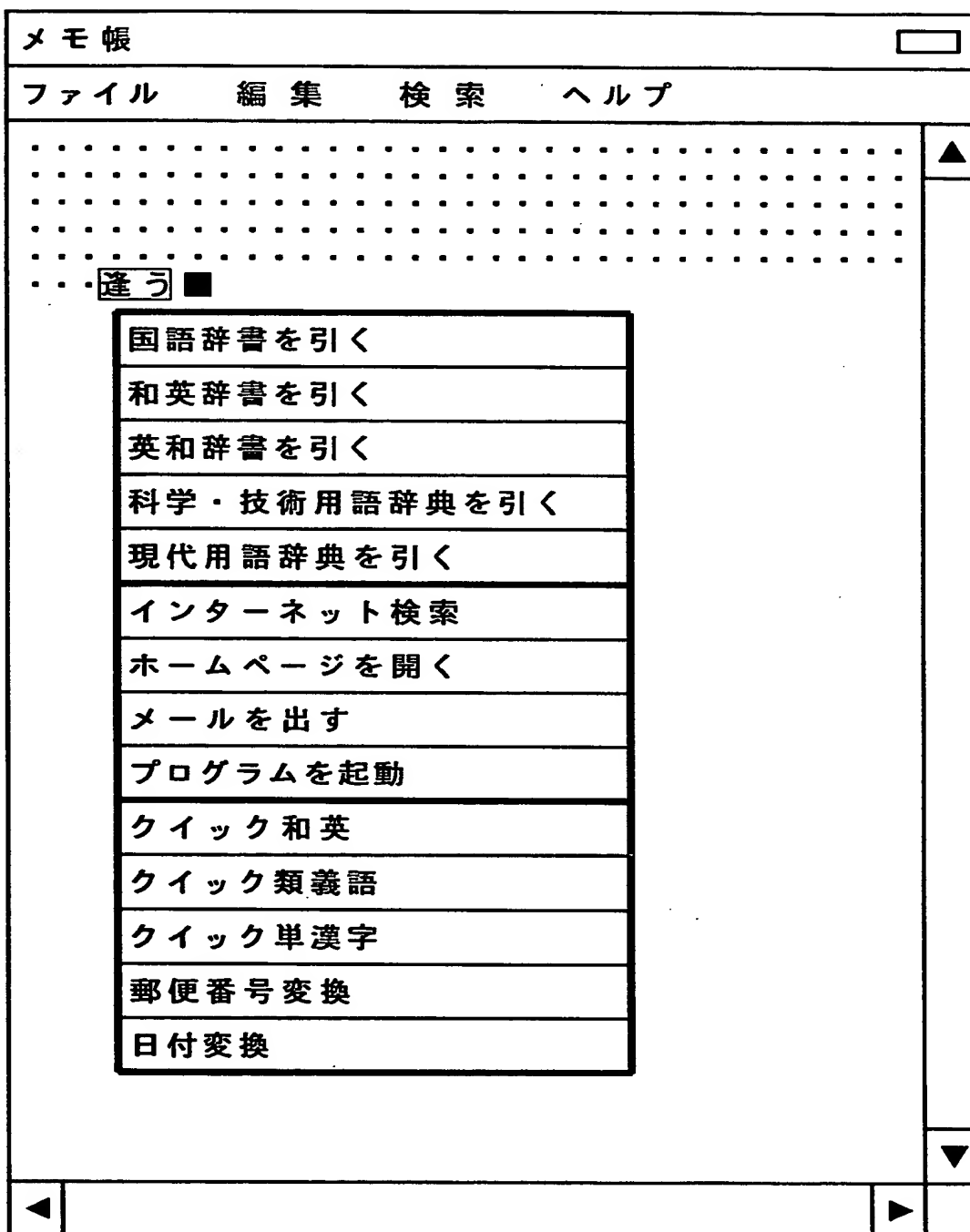


【図 2】

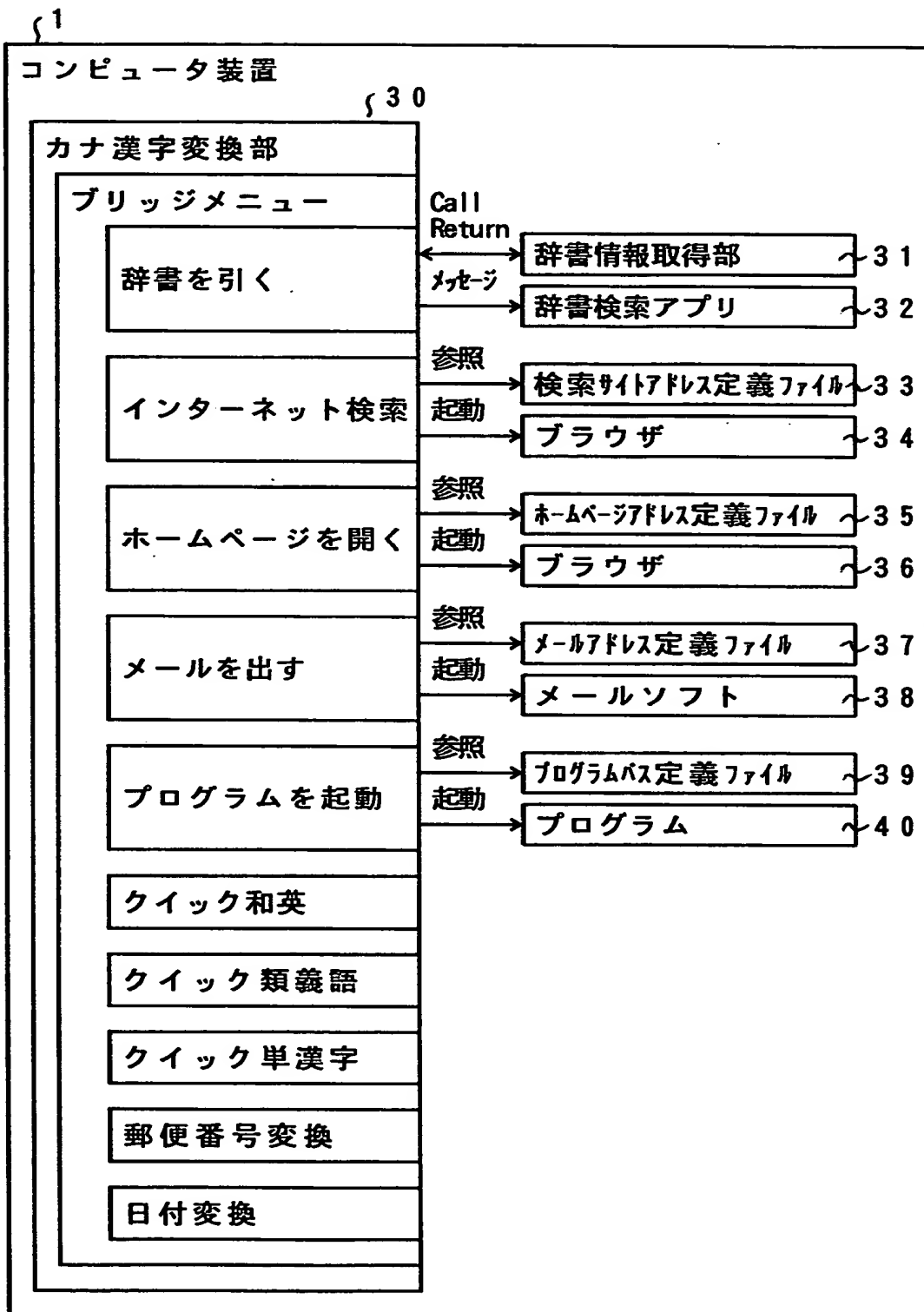




【図 3】



【図4】



【図 5】

指定されている検索サイトの名称	
検索サイト 1 の名称	検索サイト 1 の URL
検索サイト 2 の名称	検索サイト 2 の URL
⋮	⋮

(a)

[SEARCH]	
CURRENT = search site 1	⋯⋯⋯ 指定検索サイトの名称
[search site 1]	⋯⋯⋯ 名称
SITE=http://search1.co.jp/search?query=%EUC	⋯⋯⋯ URL
[search site 2]	⋯⋯⋯ 名称
SITE=http://search2.co.jp/search?query=%EUC	⋯⋯⋯ URL
⋮	⋮

(b)

【図 6】

キーワード 1	ホームページの URL
キーワード 2	ホームページの URL
⋮	⋮

(a)

[URL]	
キーワード 1	=http://www.sample1.co.jp/
キーワード 2	=http://www.sample2.co.jp/
⋮	⋮

(b)

【図 7】

キーワード 1	メールのアドレス
キーワード 2	メールのアドレス
:	:

(a)

[MAIL]	
キーワード 1 =mailto:sample1@sample.co.jp	
キーワード 2 =mailto:sample2@sample.co.jp	
:	

(b)

【図 8】

キーワード 1	プログラムへのパス
キーワード 2	プログラムへのパス
:	:

(a)

[PROGRAM]	
キーワード 1 =sample1.exe	
キーワード 2 =sample2.exe	
:	

(b)

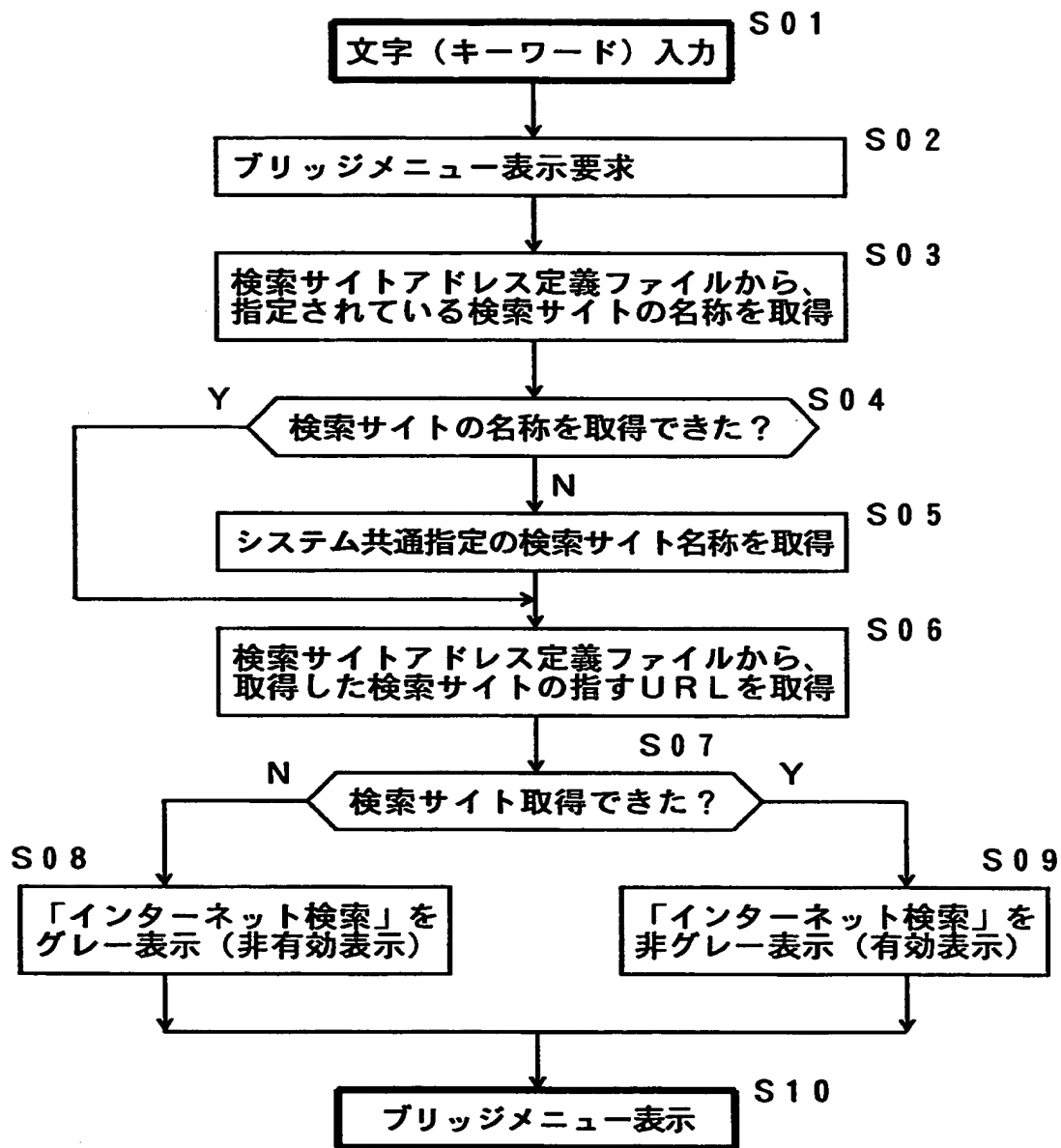
【図 9】

ホームページアドレス セクション ([URL])	
キーワード 1	ホームページの URL
キーワード 2	ホームページの URL
⋮	⋮
メールアドレス セクション ([MAIL])	
キーワード 1	メールのアドレス
キーワード 2	メールのアドレス
⋮	⋮
プログラムパス セクション ([PROGRAM])	
キーワード 1	プログラムへのパス
キーワード 2	プログラムへのパス
⋮	⋮

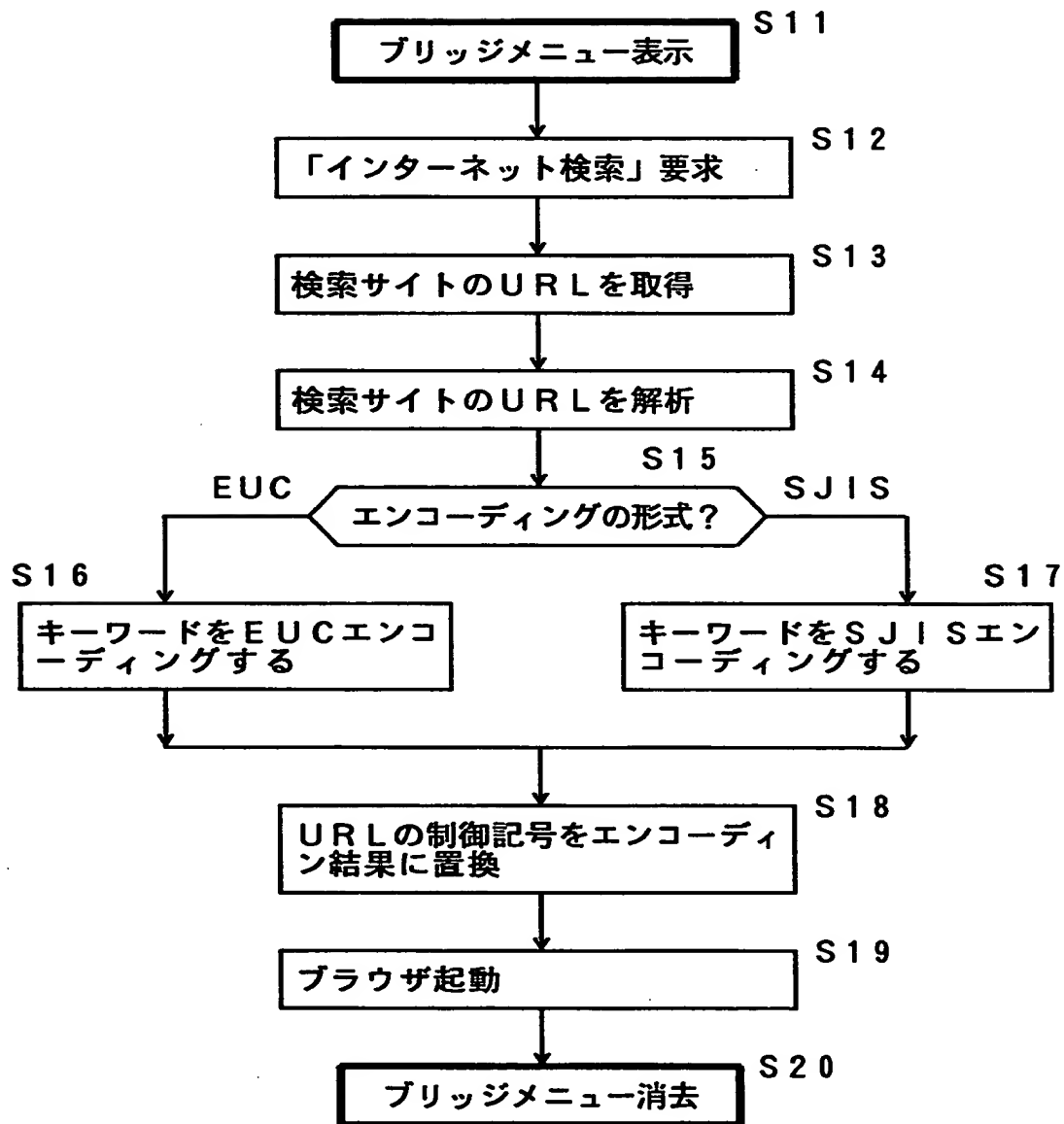
【図 10】

ホームページ/メール/プログラムの一覧					
<div>ホームページを開く</div> <div>メールを出す</div> <div>プログラムを起動</div>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">情報</td> </tr> <tr> <td> <div>キーワード</div> <div>メモ帳 メモ メモ 電卓</div> </td> <td> <div>情報</div> <div>notepad.exe notepad.exe notepad.exe calc.exe</div> </td> </tr> </table>	情報		<div>キーワード</div> <div>メモ帳 メモ メモ 電卓</div>	<div>情報</div> <div>notepad.exe notepad.exe notepad.exe calc.exe</div>
情報					
<div>キーワード</div> <div>メモ帳 メモ メモ 電卓</div>	<div>情報</div> <div>notepad.exe notepad.exe notepad.exe calc.exe</div>				
<div>情報の追加</div> <div>情報の削除</div> <div>情報の変更</div> <div>閉じる</div>					

【図 11】

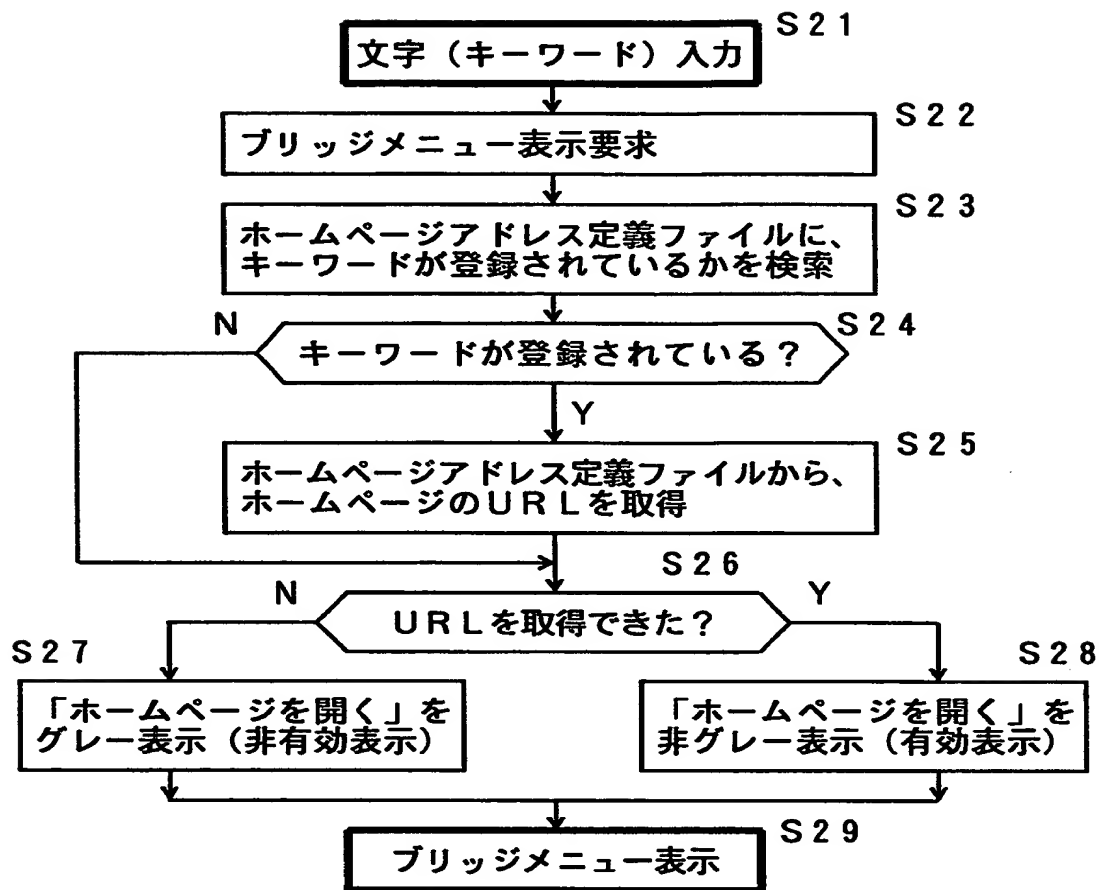


【図12】

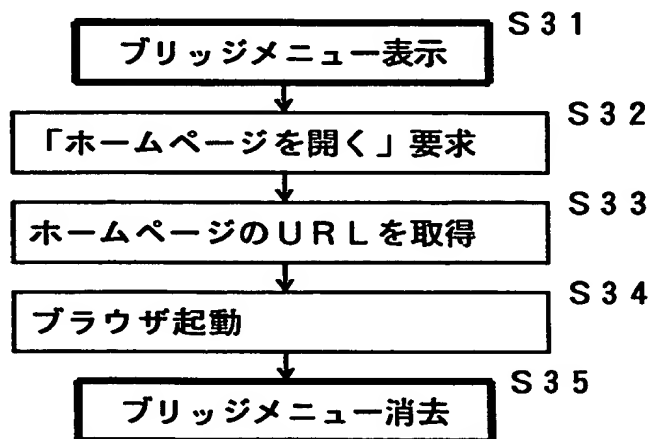




【図 13】

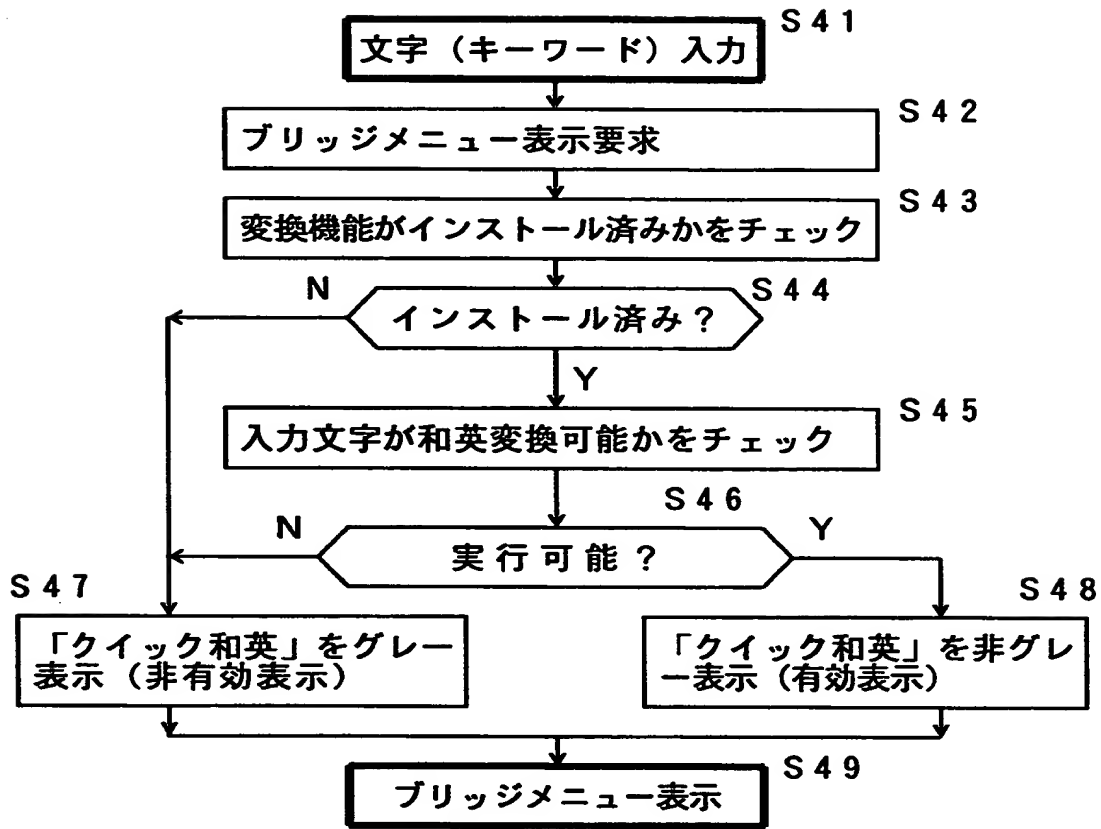


(a)

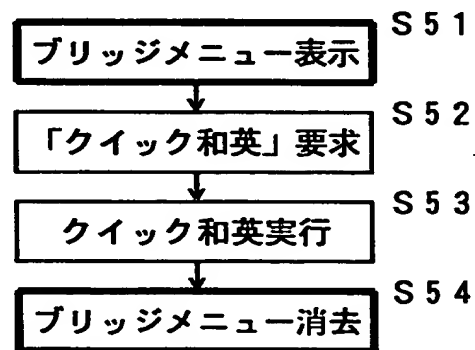


(b)

【図14】

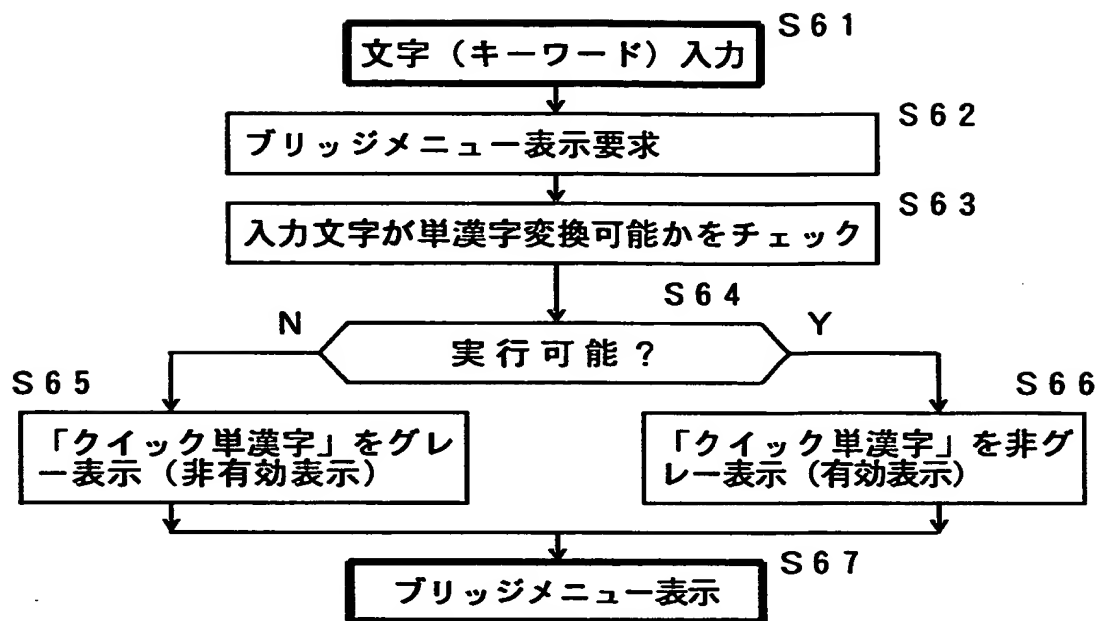


(a)

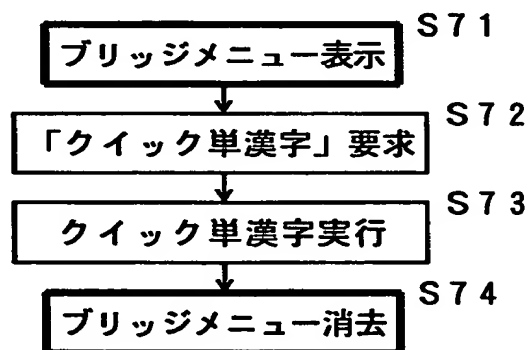


(b)

【図15】

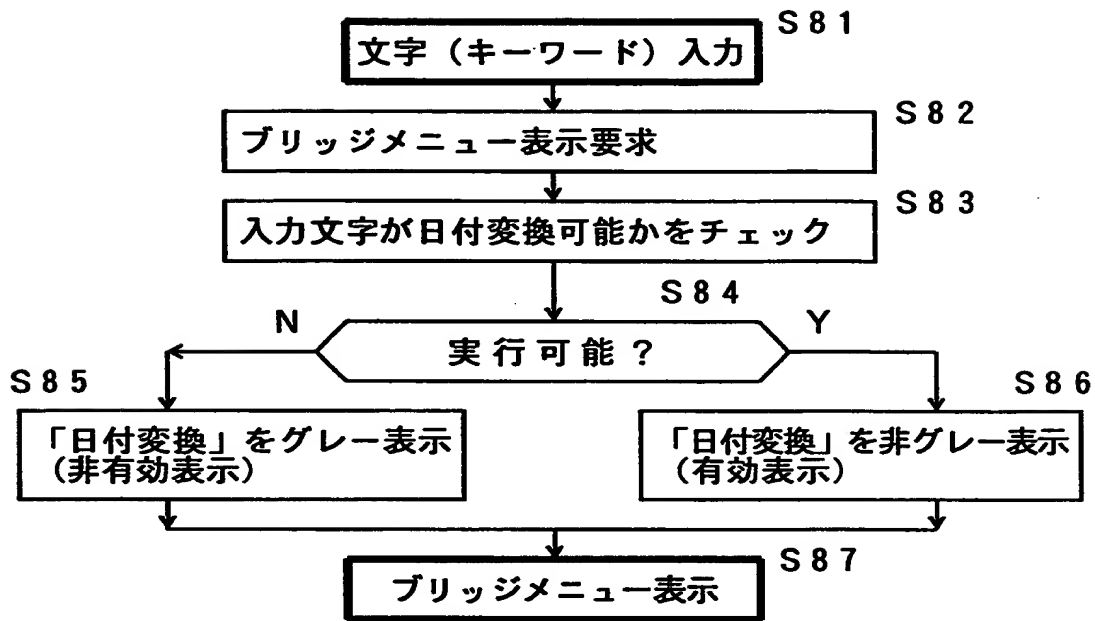


(a)

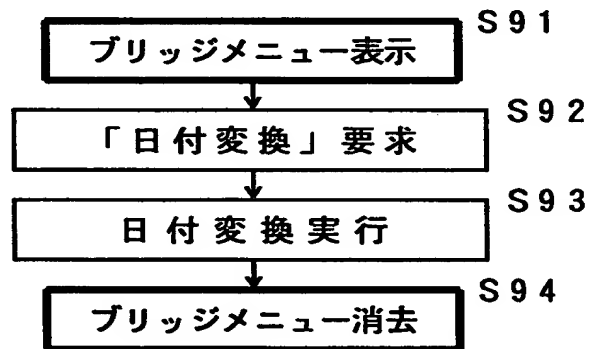


(b)

【図16】

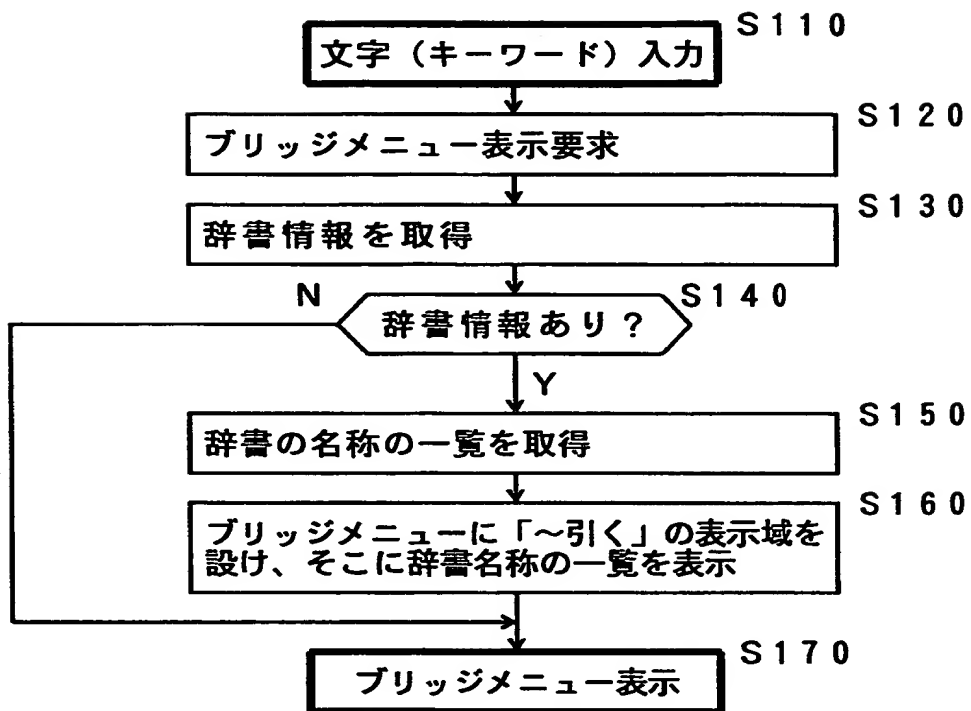


(a)

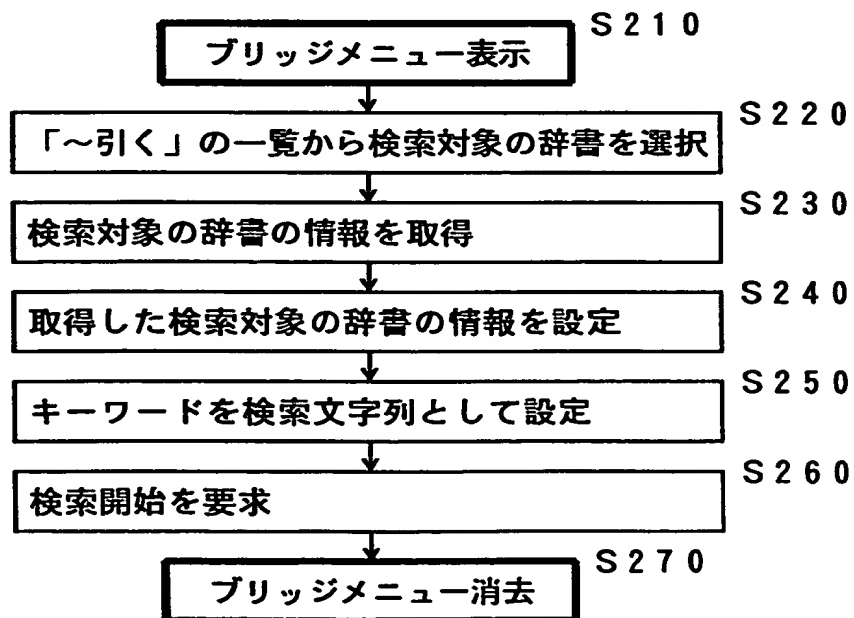


(b)

【図17】

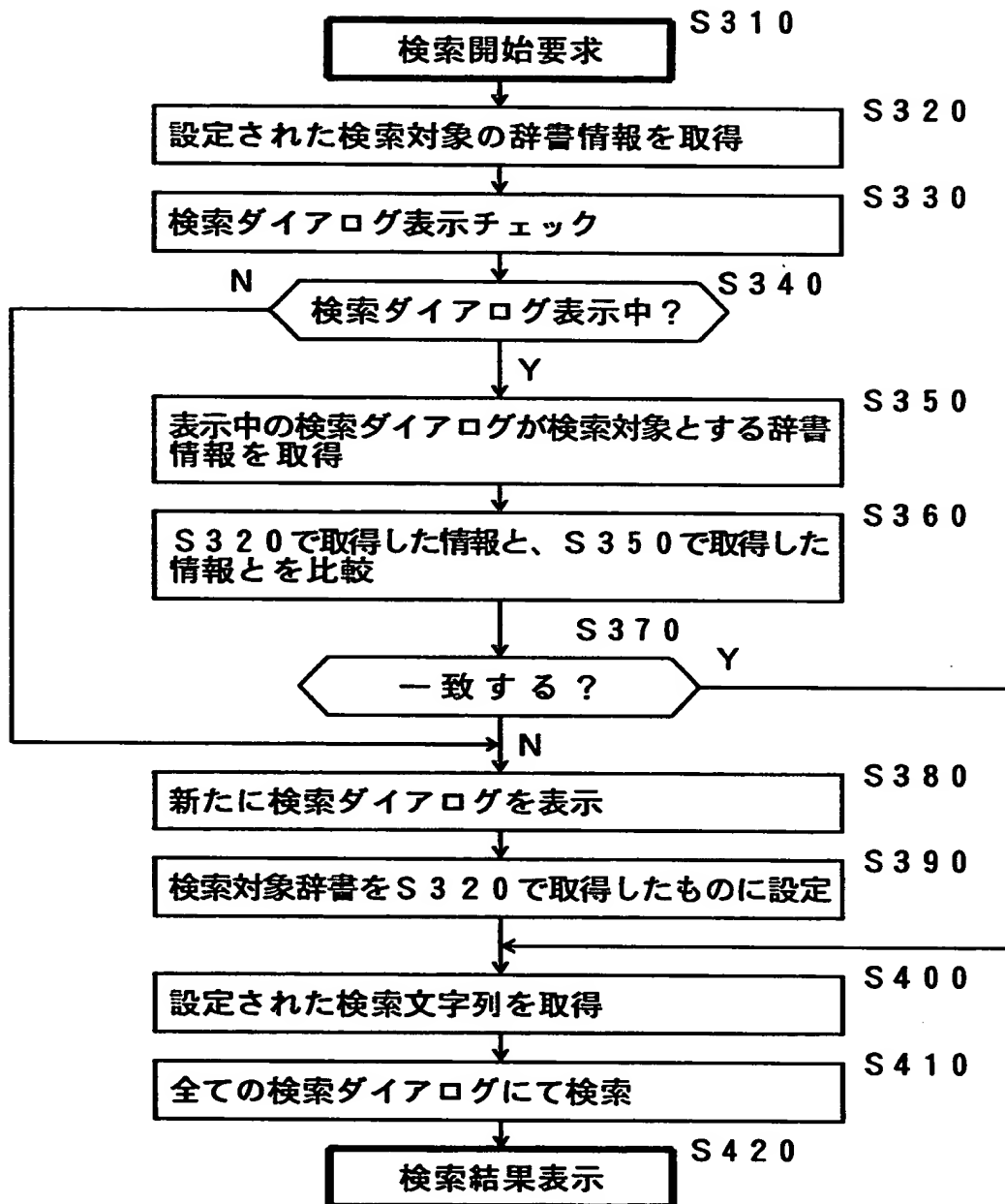


(a)

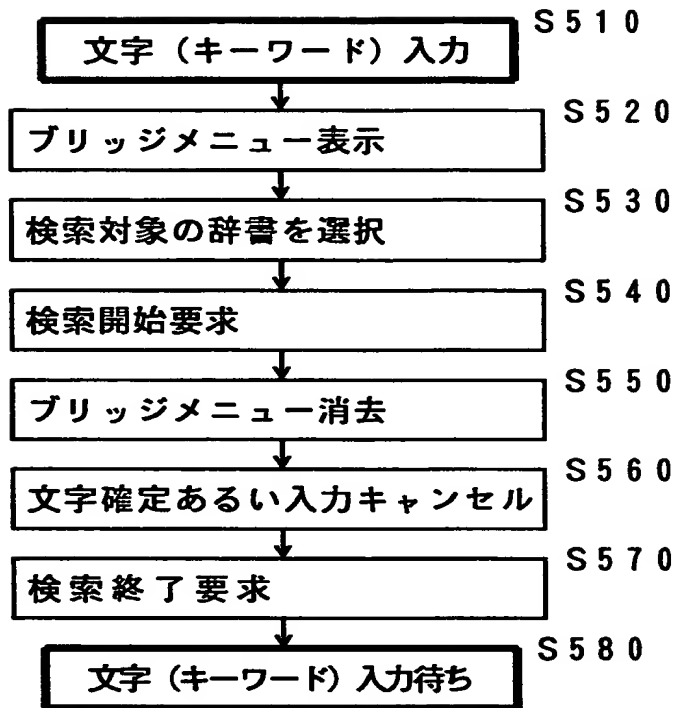


(b)

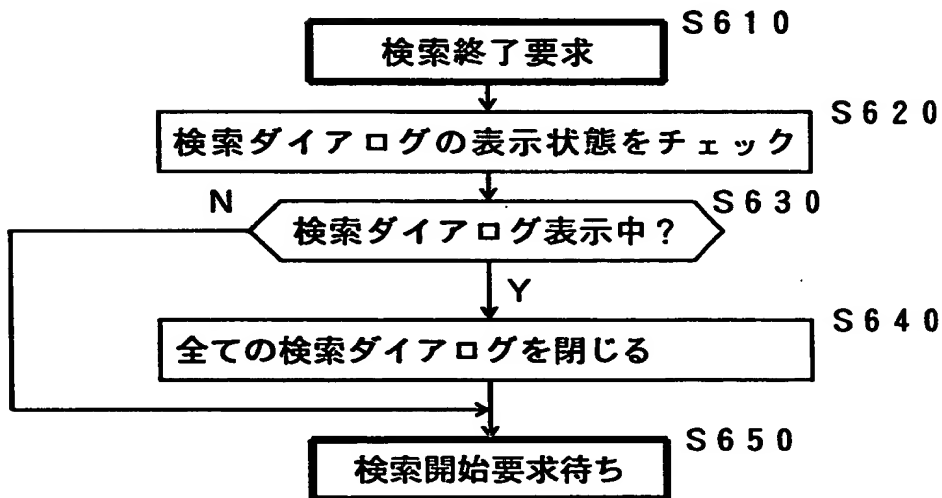
【図 18】



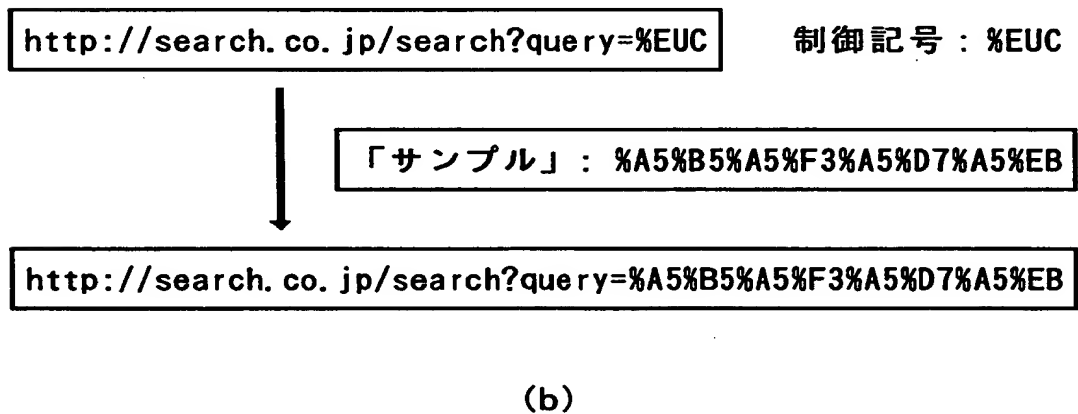
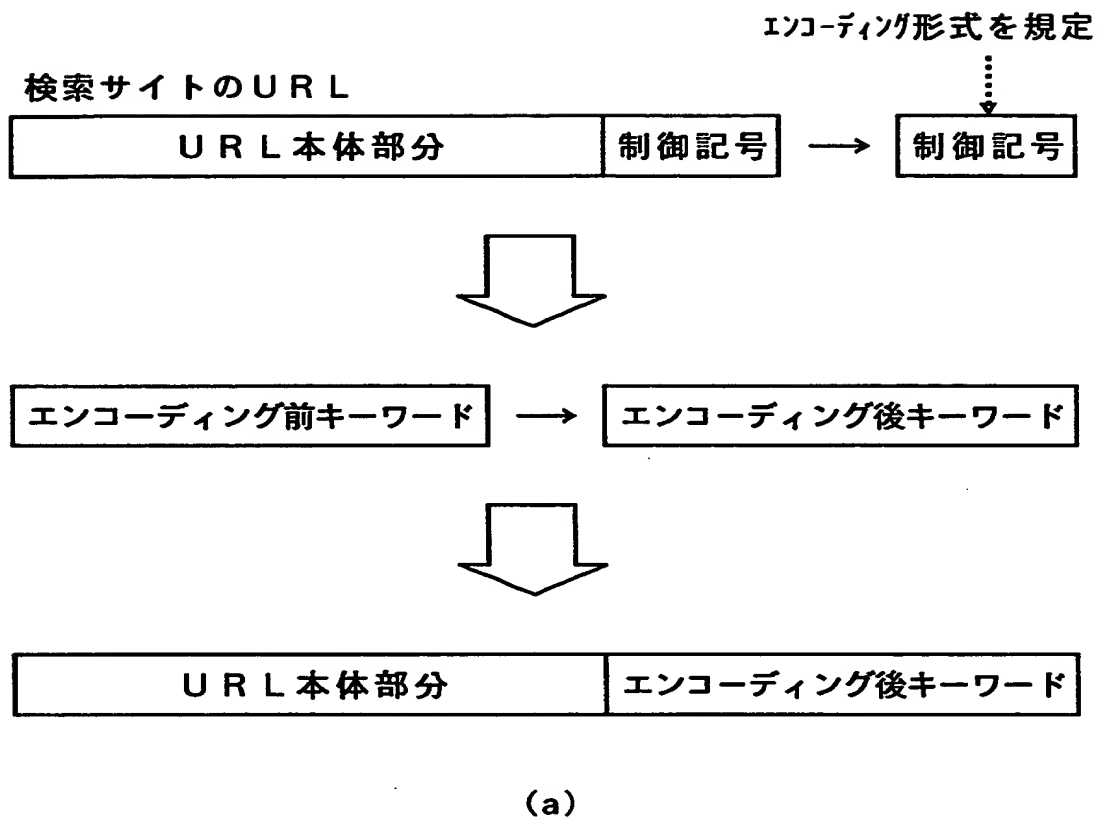
【図 19】



【図 20】



【図 21】





【図 2 2】

[illegible]

【図 23】

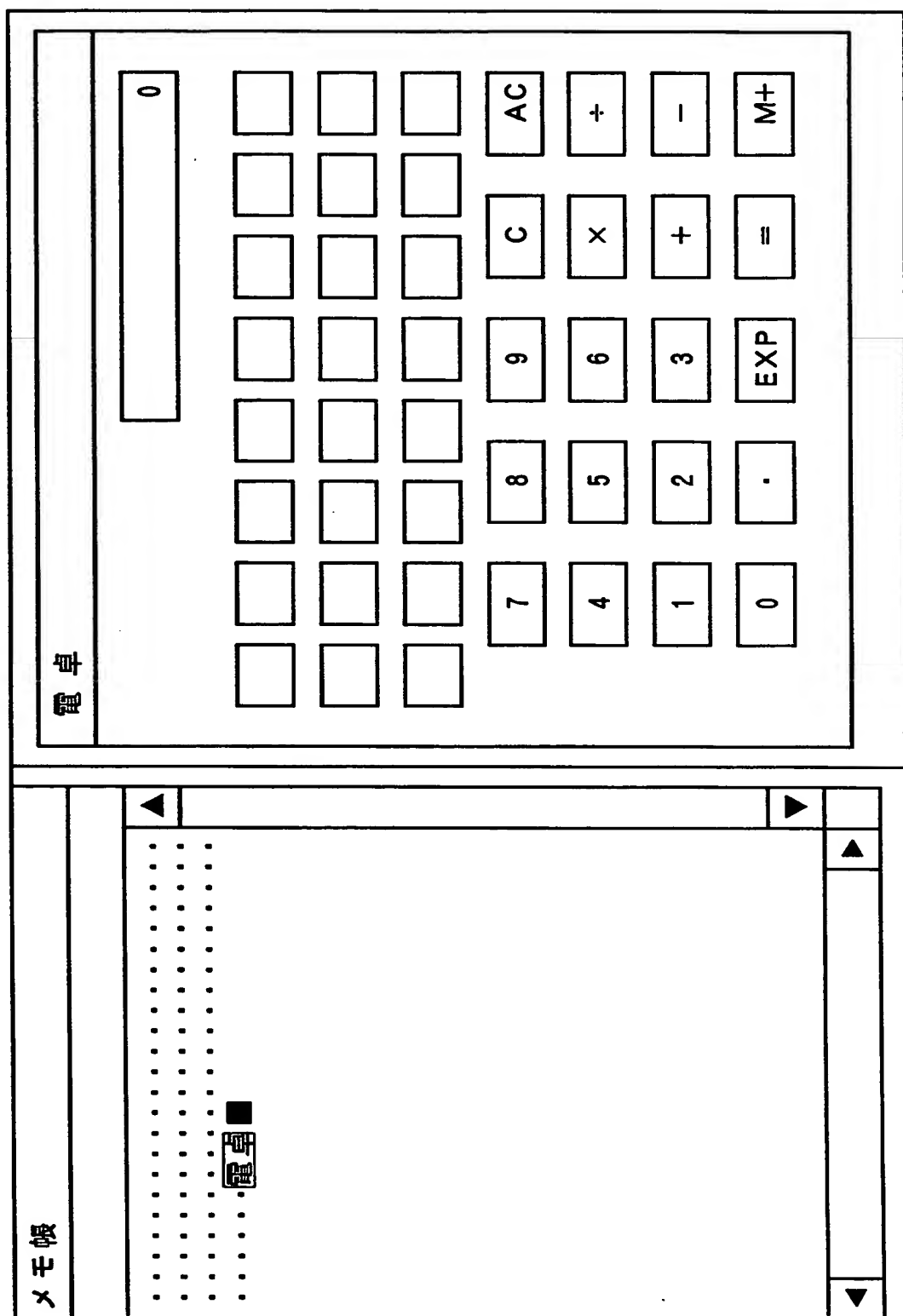
メモ帳	<div>▲</div>		<div>▶</div>		インターネットゾーン
	<div>▼</div>		<div>▲</div>		
<div>富士山</div>		<div>（富士山株式会社ホームページ）</div>			

【图 24】

メモ帳	
<div>..... ..... ..... ..... ..... ..... <div>富士山太郎</div> </div>	
<div>&lt;&gt;</div>	
>	

メッセージの作成	
宛先	fujisantarou@abcd.co.jp
写し	
Bcc	
件名	
<div>&lt;&gt;</div>	
>	

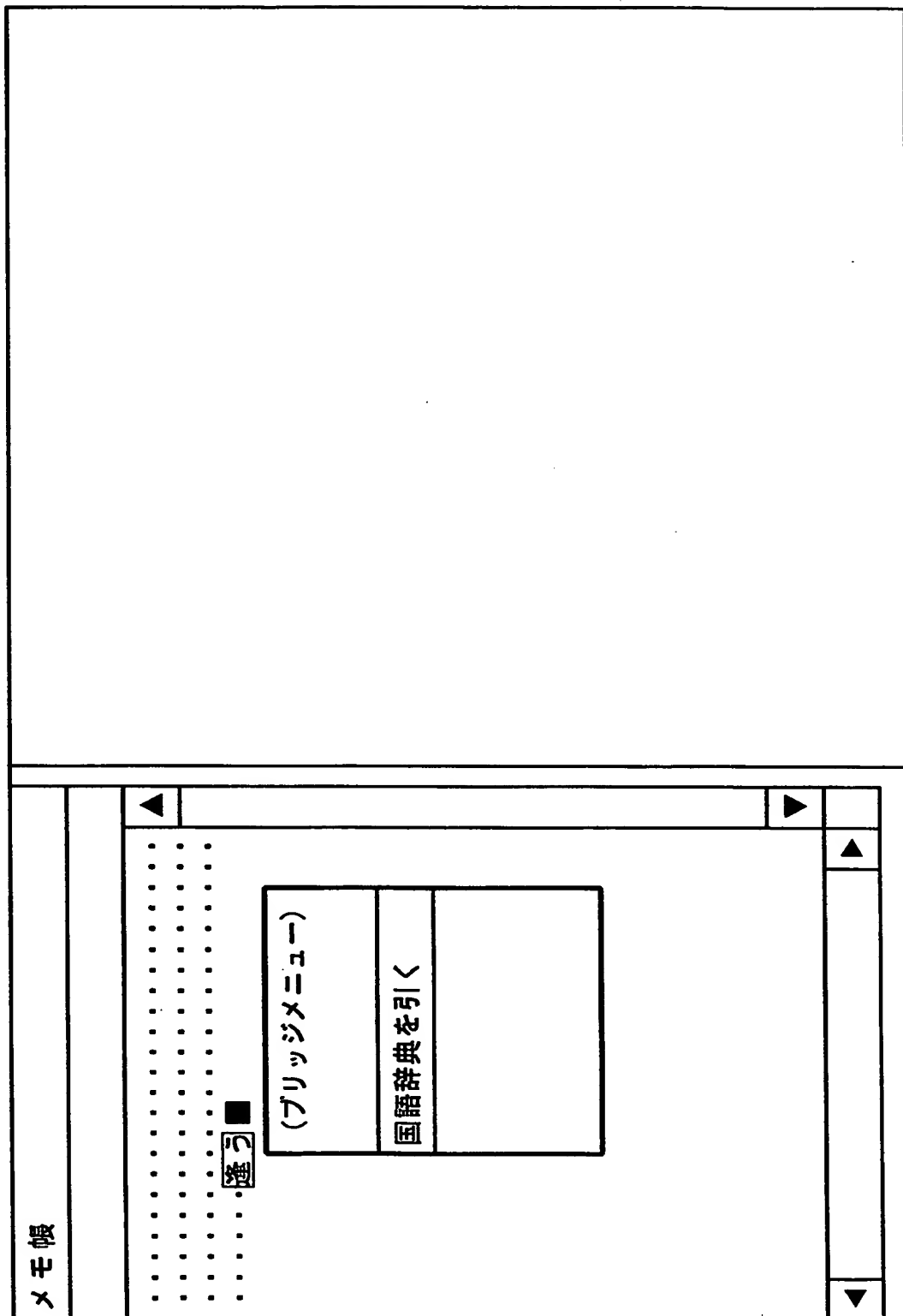
【図 25】



【图 2 6】

[illegible]

【図 27】



【图 28】

[illegible]

【図 29】

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">メモ帳</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; float: left; width: 150px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">あう【合う】</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; float: right; width: 150px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">あう【合う】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     あう【合う】                      互いに...する。集まって一つになる。つりあいがとれる。調和する。一致する。合致する。                 </div> </div> <div style="clear: both;"></div> </div> </div>
---	--



【図 30】

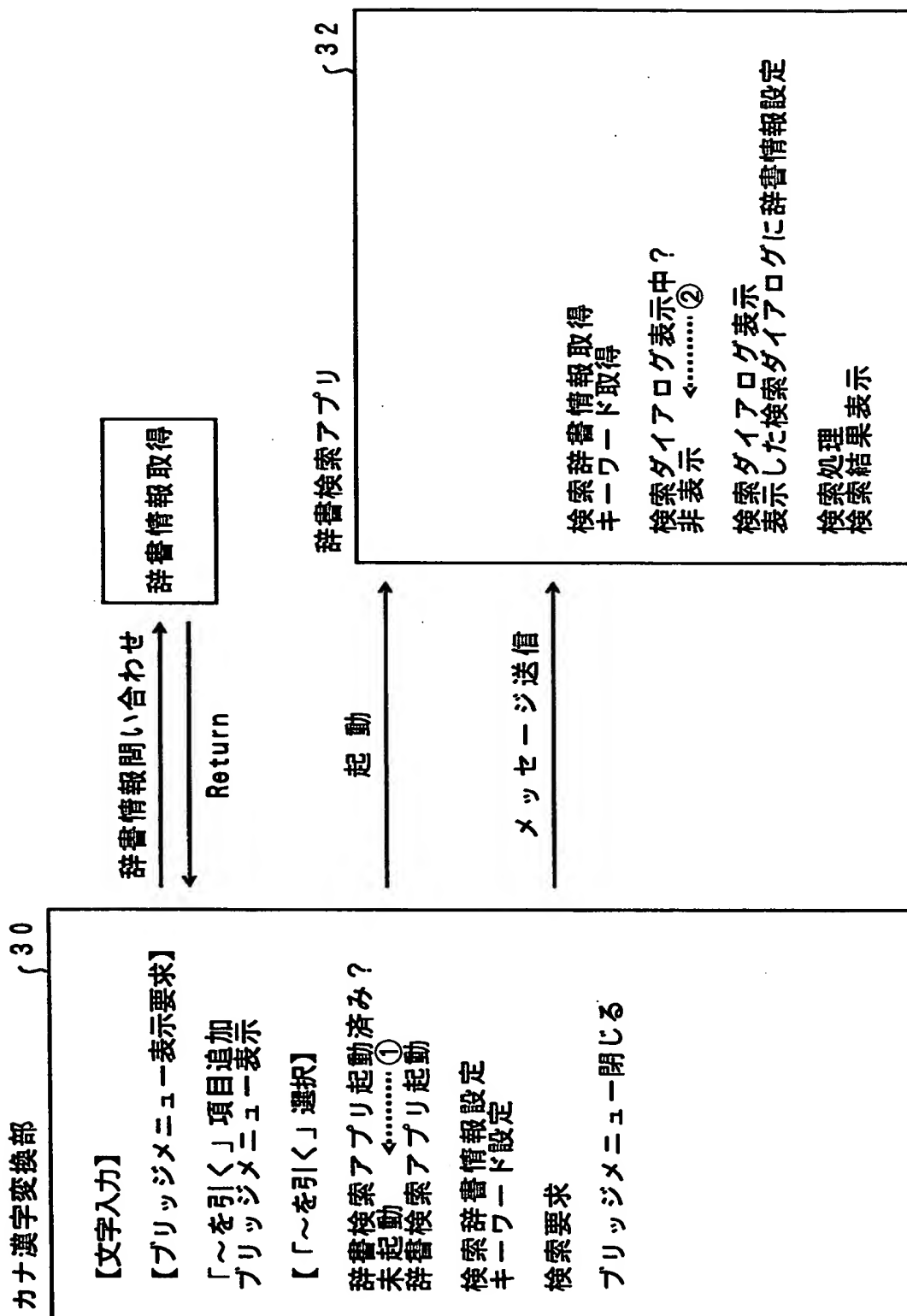
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">メモ帳</div> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 5px; left: 5px;">...</div> <div style="position: absolute; top: 5px; right: 5px;">▲</div> <div style="position: absolute; bottom: 5px; left: 5px;">...</div> <div style="position: absolute; bottom: 5px; right: 5px;">▼</div> <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%);"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">合う</div> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">国語辞書から検索</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">合う ▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">▲</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">あう【合う】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">▼</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>あう【合う】 互いに...する。集まって一つになる。つりあいがとれる。調和する。一致する。合致する。</p> </div> </div> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">和英辞書から検索</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">合う ▼</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">▲</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">あう【合う】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; flex: 1;">▼</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>あう【合う】 [適する]fit:suit [一致する]agree with:check with [正しい]be correct:be right [調和する]harmonize with:go well with:match with</p> </div> </div> </div>

【図 31】

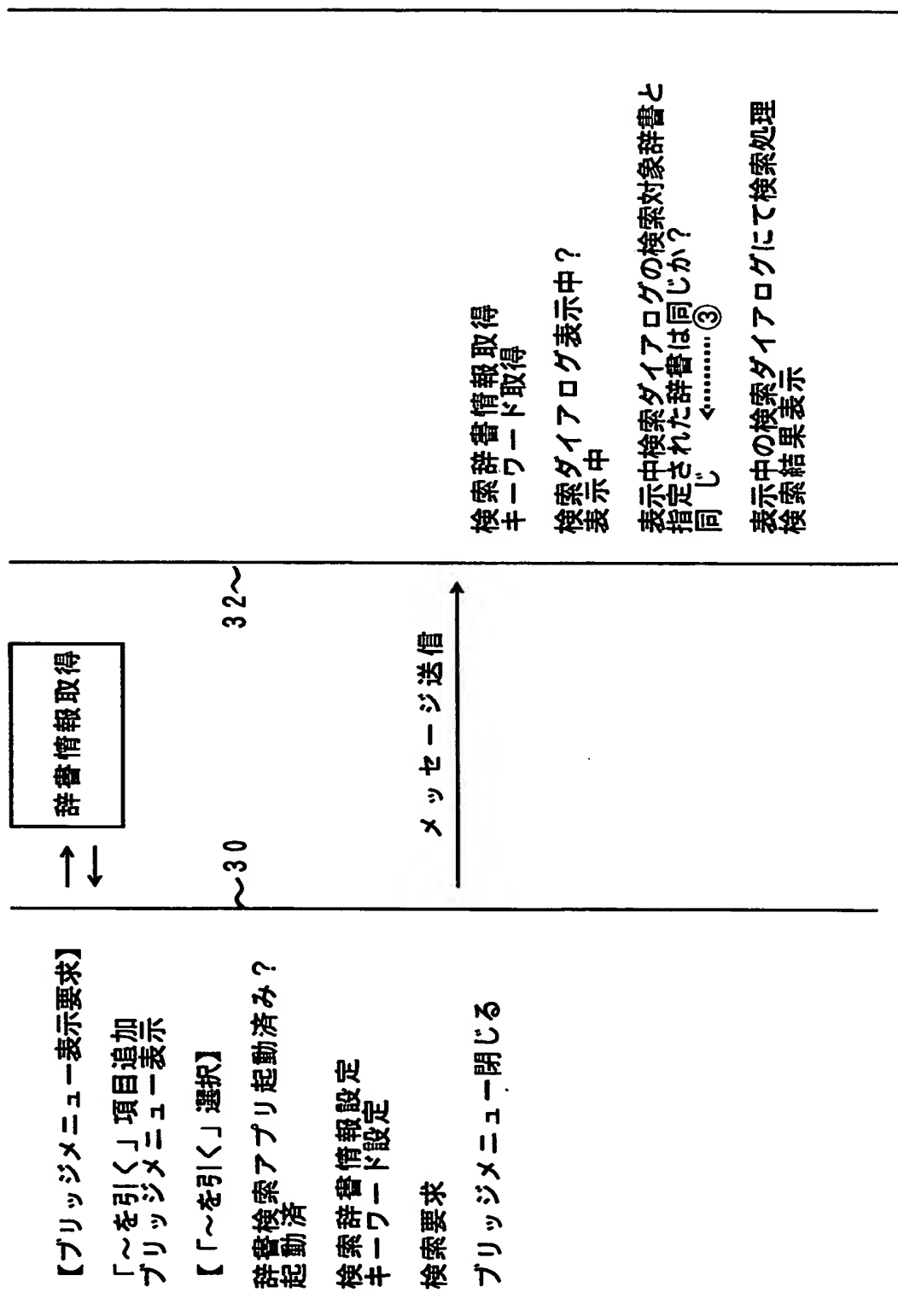
メモ帳

合うのは

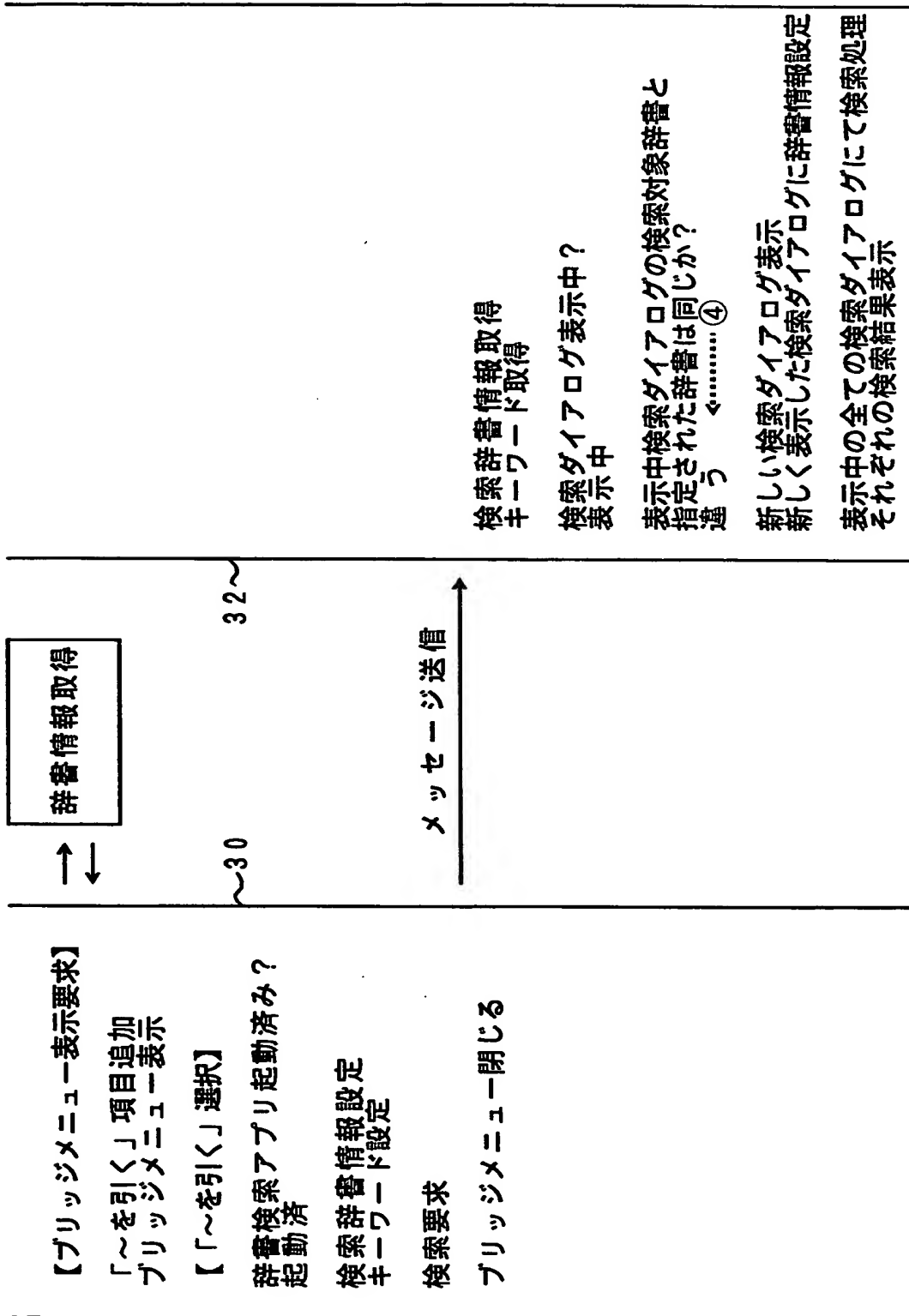
【図 3 2】



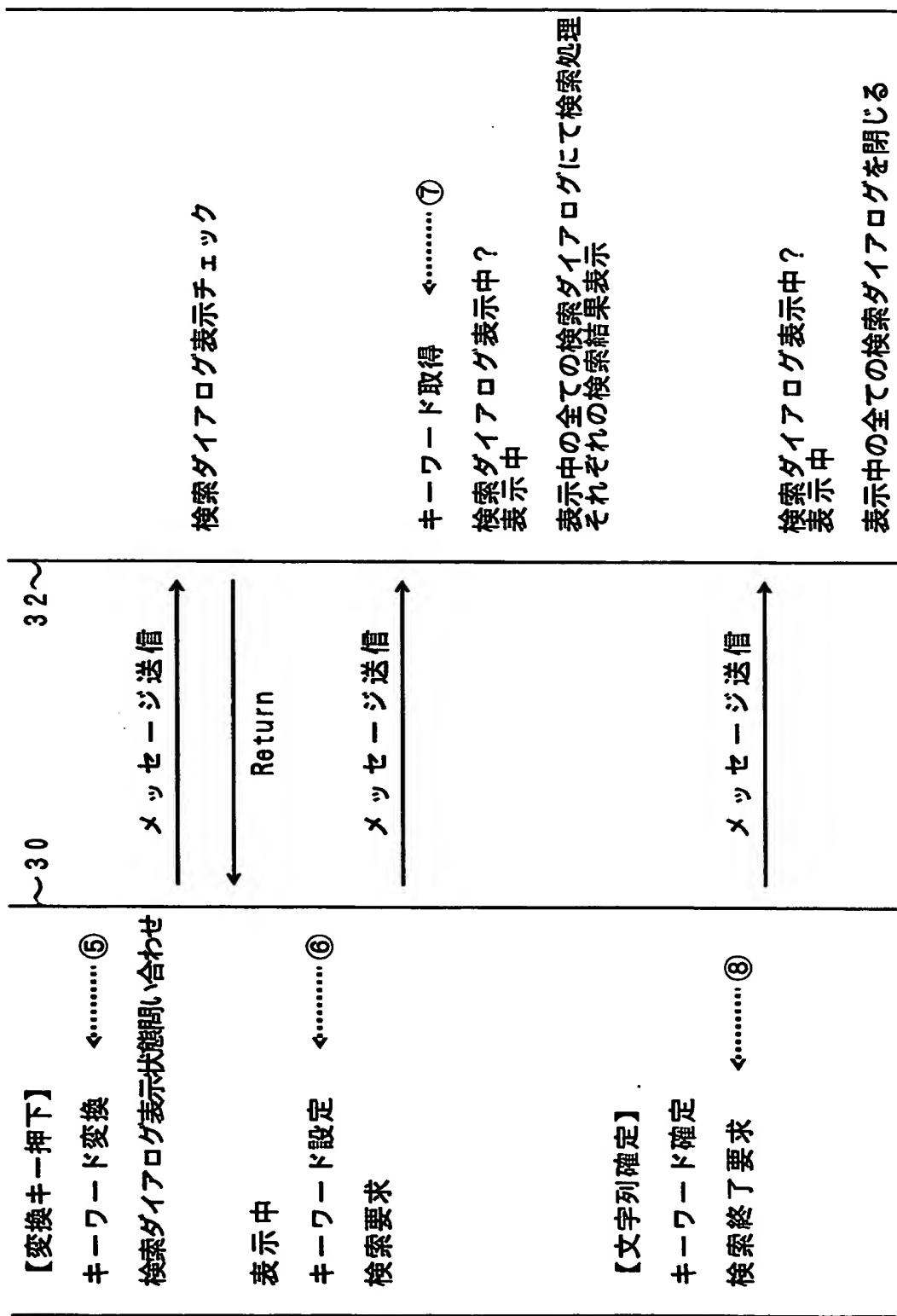
【図 33】



【図 3 4】



【図 3 5】



【書類名】                      要約書

【要約】

【課題】 本発明は、文字入力中に、その入力中の文字に応じた必要な処理を実行できるようにする文字入力機能を持つコンピュータ装置の提供を目的とする。

【解決手段】 入力された文字から特定されるキーワードを検出する手段と、キーワードが検出される場合に、登録されている辞書やプログラムや変換プログラムについて記述するメニュー画面を表示する手段と、メニュー画面の辞書が選択される場合に、辞書検索プログラムに対し、選択された辞書を検索対象として、キーワードの指す辞書データの検索要求を発行したり、メニュー画面のプログラムが選択される場合に、キーワードあるいはそれに対応付けられる属性値をパラメータとして指定しつつ、選択されたプログラムを起動したり、メニュー画面の変換プログラムが選択される場合に、キーワードを変換対象として、選択された変換プログラムを起動する起動手段とを備えるように構成する。

【選択図】                      図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日 1996年 3月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号  
氏 名 富士通株式会社